

〈資料紹介〉加賀家文書「〔蝦夷語和解〕」  
—蝦夷通辞・加賀伝蔵による『藻汐草』の語釈本—

深澤 美香

1. 加賀家文書「〔蝦夷語和解〕」について

『藻汐草』は、寛政4年(1792)に板行された日本で初めての日本語・アイヌ語辞典と称される。その当時はもちろん、その後のアイヌ語研究史に大きな影響を与えた書であり、著者は蝦夷通辞(日本語とアイヌ語の通訳)の上原熊次郎である。各地の通辞や番人たちは、この『藻汐草』を自分なりの表記法で写し「写本」をつくった。それに対し「類本」というのは、編者自身が慣れ親しんだアイヌ語方言の語彙を付け足したり、不要な語彙を削ったり、必要な見出しを増やしたりしてつくった「マイ単語帳」のことである<sup>40</sup>。

本稿では、根室地方の蝦夷通辞、加賀伝蔵が執筆した『藻汐草』類本を紹介する。加賀家文書『蝦夷方言 藻汐草 [写]』(整理番号 No. 49)<sup>41</sup>として紹介されているものの一部である。『蝦夷方言 藻汐草 [写]』は上下に分れており、『藻汐草』の「写本」が上であるのに対し、下が「類本」にあたる。天地部・人物部・支體部の和語見出しに選り抜きのアイヌ語語彙を記載し、語源や語釈をつけるという稀なスタイルをとった語彙集である。「藻汐草 [写]」に続く19丁(107丁表~126丁裏)で構成され、序題、目録題、序文、跋文はない。以下では、上を「藻汐草 [写]」、下を「〔蝦夷語和解〕」と呼ぶことにする。

2. 先行研究

「〔蝦夷語和解〕」は、秋葉(1989: 703-721)に翻刻が掲載され、別海町郷土資料館(2005: 353-376)に「アイヌ語辞典(和訳)」として現代語訳化が試みられた。「〔蝦夷語和解〕」のアイヌ語表記法に関しては、田中・佐々木(1985)による「藻汐草 [写]」への見解が重要である。その後、拙稿(2014)でも、原典の上原熊次郎『藻汐草』、加賀家文書「藻汐草 [写]」、「〔蝦夷語和解〕」を比較し、伝蔵が自らの表記法に近づいていく過程について提示した。

拙稿(2015)は、同じく根室地方、金沢家文書の『藻汐草』類本について紹介したものである。そこで検討したいくつかの語彙については、「〔蝦夷語和解〕」を参照、比較することで方言的な特徴について検討した。なお、本稿の編集方針も概ねこれに則っている。

3. 編集方針および凡例

「〔蝦夷語和解〕」語彙リストの編集方針および凡例は、以下の通りである。

1. 「〔蝦夷語和解〕」は、縦書きで上から「①和語見出し、②アイヌ語、③アイヌ語和解」

<sup>40</sup> 「写本」と「類本」の区別と判断基準については深澤(2015)で提示した。

<sup>41</sup> 整理番号は、別海町郷土資料館(2012)による。書誌情報は深澤(2014)にも掲載した。

という体裁をとっているが、本稿の語彙リストは②のアイヌ語を先頭に五十音順に並び替えたものである。「エ」と「ヲ」は、「ウ」の後に掲載した。）

2. 項目数は、①和語見出し 366、②アイヌ語 429 (天地：227, 人倫：106、支體 96)、③アイヌ語和解 379。従って、本稿の語彙リストの見出しは 429 である。
3. 秋葉 (1989) の翻刻や別海町郷土資料館 (2005) の現代語訳は適宜参照したが、それらと異なる箇所も少なくない。ここでは煩雑になるため全てをいちいち注記しなかった。それらの先行研究とともにお使い頂きたい。
4. 伝蔵による和解は、文法的、音韻論的に適切ではないことが往々にしてある。しかし、ときに音声情報として有益で、民間語源的なものが反映されている可能性もあるので、修正せずそのまま記載した。和解がアイヌ語のどこの部分に対応するかは推測を含めて注記した。
5. 部門名は「人物部」が「人倫」という見出しによって始まっている。「天地部」と「支體部」の部門見出しはないため、「藻汐草 [写]」の部門名を丸括弧に入れて記載した。
6. 「蝦夷」という和語見出しに記載される説明文については、語彙リストとは区別して今回は除外した。改めて別稿で扱うことにする。

凡例：

- ①ボキ ②pok, -i ③【名】④陰門 // ⑤子供仕 [⑥子供仕える?] ⑦\*po 「子供」 ki 「仕える」  
⑧※ ; ⑨《参考》 pok, -i 「陰部(男女ともに指す)」 (N)。⑩和解関連語 : po 「子供」 (N),  
ki 「～をする」 (N)。 // ⑪秋葉翻刻によると和解は「子供ノ口」。⑫☞ 「チツ」。⑬(支  
體) ⑭(125 オ 08)

- ①アイヌ語：原文翻刻。
- ②ローマ字表記：深澤 (2014) を参考にした。
- ③品詞：可能な限り記載した。
- ④和語見出し：原文翻刻。
- ⑤伝蔵による和解：原文翻刻。
- ⑥和解の現代日本語訳：⑤の現代日本語訳。
- ⑦和解に該当するアイヌ語部分：⑤の和解が意図していると考えられるアイヌ語部分。
- ⑧未詳・要検討：不明が残る語形については「未詳」や「要検討」として注記した。
  - ・「未詳」：殆ど手掛かりとなる情報がなく不明である。
  - ・「要検討」：数少ない情報はあがるが品詞、意味解釈等において未解決部分が目立つ。
- ⑨参考・方言：アイヌ語の補足に関わって、参考と方言の 2 種の別を用いた。
  - ・《参考》：多くの辞典に掲載されているような語の意味は、中川裕『アイヌ語千歳方言辞典』や田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』から多くを引用した。バチェラーの『アイヌ・英・和辞典』を参考にした場合は英語部分を引用し、丸括弧内に深澤による和訳をつけた。

アイヌ語の引用の際、声門閉鎖音を表す記号 (ʔ) は断りなく省略した。

・《方言》：方言差が見込まれるものについては、服部四郎（編）『アイヌ語方言辞典』を中心に記載した。

⑩和解関連語：⑦で示した和解に対応するアイヌ語の補足。

⑪翻刻等に関わる補足：字消し、書入れについて記載している。

⑫参照：主に同一の和語見出しをもつ語について記載。

⑬その語彙が属する部門名。

⑭丁数・表裏、行数：例は、「125 丁表の 8 行目」。

#### ○編集記号

・クエスチョンマーク(?)：不明・不詳。

・スラッシュ(/)：別の解釈可能性。

・亀甲括弧 ( ⌈ ⌋ )：原典のローマ字表記法を変更した形。和解の現代日本語訳。

・指(☞)：参照せよ。

#### ○品詞略号

【位】	位置名詞	【否定】	否定詞
【格助】	格助詞	【副】	副詞類
【疑副】	疑問副詞	【名】	名詞
【代名】	代名詞	【連体】	連体詞
【動 0~2】	0~2 項動詞		

#### ○出典略号

(B)	バチェラー、ジョン『アイヌ・英・和辞典』第 4 版
(C 植)	知里真志保「分類アイヌ語辞典植物編」
(C 人)/『知里人間編』	知里真志保「分類アイヌ語辞典人間編」
(C 地)	知里真志保『地名アイヌ語小辞典』
(C 動)	知里真志保「分類アイヌ語辞典動物編」
(H)/『方言辞典』	服部四郎（編）『アイヌ語方言辞典』
(Kb)	久保寺逸彦『アイヌ語・日本語辞典稿』
(Ky)	萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』
(N)	中川裕『アイヌ語千歳方言辞典』
(Ok)	奥田統己『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集 (CD-ROM つき)』
(T)	田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』
(Tr)	鳥居龍蔵『千島アイヌ』
(Y)	吉田巖『北海道あいぬ方言語彙集成』

○方言略号一覧

八/八雲；幌/幌別；沙/沙流；歳/千歳；静/静内；帯/帯広,音更,芽室；美/美幌；  
釧/釧路,春採；旭/旭川,近文；名/名寄；宗/宗谷；ラ/ライチシカ(樺太)；  
千/シムムシュ(北千島)

上記以外の地名については、略号を用いずに記載した。

4. 「[蝦夷語和解]」語彙リスト

アイノ aynu【名】蝦夷 // 矢心有〔矢心有り〕  
\*ay「矢」nu「心有り」；《参考》aynu  
「(kamuy「神」に対して)人間、(sisam「和  
人」に対して)アイヌ」(N)。和解関連語：  
ay「矢」(N), no「よく～する、十分に～  
する」(T)。 // 人倫(118 オ 10)

アウタ<sup>1</sup> aw ta【位・格助】隣 // 声聞合〔声  
を聞き合う〕\*aw「声」ta?「聞き合う?」；  
《参考》aw「隣」(N), ta「(場所)に」。 //  
☞アウタ<sup>2</sup>。(天地)(114 オ 04)

アウタ<sup>2</sup> aw ta【位・格助】隣家 // 声聞合  
〔声を聞き合う〕\*aw「声」ta「聞き合  
う?」；《参考》aw「隣」(N), ta「(場所)に」。  
// ☞アウタ<sup>1</sup>。(天地)(117 ウ 06)

アキ ak, -i【名】弟 // —〔和解なし〕；《参考》  
ak, -i「弟」(N)。「アケ」という表記が別  
にあることから、ここは aki ではなく  
ak という概念形を表している可能性が  
高い。 // ☞アケ。人倫(120 ウ 06)

アケ ake/aki【名】弟 // 身末〔身の末〕；《参  
考》「アキ」という表記が別にあることか  
ら、ここは aki 「～の弟」(T) や ake  
という所属形を表している可能性が高い。  
ake という形は未見であるが、北千島  
(Tr) に akepo という形が報告されてい  
る。 // ☞アキ。人倫(120 ウ 07)

アシケチウブ asikecup【名】上旬 // 始ノ月  
〔始まりの月〕\*asike「始まりの?」cup

「月」；《参考》asik は「五」(N) という  
意味はあるが「始まり」という意味で用い  
られるのは未見。解釈の際に「リ」と「ケ」  
を誤った可能性があるだろうか。asircup  
「三日月、新月」(Ky) : asir「新しい」(N),  
cup「(時間としての)月」(N)。 // (天地)(115  
ウ 08)

アシノビカタ asnopikata【名】未 // 強吹明  
方〔(風が)強く吹く明け方〕；《参考》  
asnopikata は未見であるが、  
asnomenas「真南風」(沙 H) という言い  
方がある。 // ☞ビガタ。(天地)(111 オ 04)

アチャ aca【名】父親 // 片身貰ふ〔片身を貰  
う〕；《参考》aca「父」(H)。《方言》aca が  
「父」という意味を表すとき、その語形は  
北海道の周縁部、および樺太に見られる。  
「父」という語形のなかでもより古い形  
と考えられている(cf. 中川 1996) : aca, -  
ha(宗 H), aaca, -ha(ラ H), acapo(八 H)。  
// 人倫(120 ウ 02)

アツテクル attekur【名】主人 // 食吞拵いく  
ル、者〔飲み食い(の物)拵えてくれる者〕  
※要検討；《参考》atte「～を増やす」(Ok),  
kur「人」(N)。cep atte kamuy は、cep  
「魚」を天界から地上におろす神様であ  
るが、それと関係する語であろうか。 // 和  
解の「くる」については判読困難。人倫  
(120 オ 01)

- アトイ atuy 【名】海 // 天の沼 [天の沼] \* a? 「天?」 tuy(<to) 「沼」; 《参考》 atuy 「海」 (N)。和解関連語: to 「沼」 (N)。 // (天地)(107 ウ 11)
- アノカエ anokay 【代名】其方 // - [和解なし]; 《参考》 anokay 「あなたがた、あなた」 (H)。anokay には、このほかに一人称複数(包括)を表すなどの様々な意味・機能がある。《方言》 anokay は北海道東部に見られる語形: anokay(帯, 美, 旭, 名, 宗 H), aokay(八, 幌 H), aoka(沙 H)。 // 人倫(121 ウ 11)
- アプト apto 【名】雨 // 天のよたれ [天のよたれ] \* a 「天?」 p(u)to? 「よたれ?」; 《参考》 apto 「雨」 (H)。《方言》 apto(幌, 沙, 名 H), ahto(ラ H)。 // ㊦ルアンベ。(天地)(107 オ 07)
- アベ ape 【名】火 // 天煎焼して喰せる [天が煎焼きして食べる] \* a 「天?」 (i)pe 「食べる」; 《参考》 ape 「火」 (N)。和解関連語: ipe 「食事する」 (N)。 // (天地)(107 オ 09)
- アベセベク apesepek?(<ape sesek?) 【名+動 1?】火燃る // - [和解なし] ※要検討; 《参考》カタカナから推定される形は apesepek だが未見。Abe-seseku [apesesek] 「Fire heat.(火熱)」 (B): ape 「火」 (N), sesek 「熱い」 (N)。 // (天地)(111 ウ 04)
- アベニノロ apeninor?(<apenuyor?) 【名?】炎 // 火木息 [火・木・息] \* ape 「火」 ni 「木」 nor? 「息?」 ※未詳; 《参考》 ape 「火」 (N), nuy 「炎」 (N), or, -o 「～のところ」 (N) であろうか。和解関連語: ni 「木」 (N)。 // (天地)(114 オ 03)
- アベブシ apepus 【名+動 1】飛火 // 火飛 [火が飛ぶ] \* ape 「火」 pus 「飛ぶ」; 《参考》 apepus 「火が跳ねる」 (Ky): ape 「火」 (N), pus 「破裂する」 (N)。 // (天地)(114 オ 10)
- アム am 【名】爪 // - [和解なし]; 《参考》 am, -i 「爪(つめ)」 (N)。 // (支體)(123 ウ 12)
- アヤ aya 【名】手筋 // 波形? [波形]; 《参考》 aya 「木目、手のひらの筋」 (Ky)。 // (支體)(125 ウ 09)
- アラブ arap? 【名】にきび // 口なし種 [口がない種] ※未詳。 // (支體)(126 オ 01)
- アリキシヤム arkisam 【位】左手 // 片手側 [片手の側] \* arki 「片手」 sam 「側」; 《参考》 harkisam 「左側」 (T)。《方言》北海道東部方言で語頭の h は落ちやすいが、arkisam という形は確認できていない。 // (支體)(124 オ 06)
- アロバイカル arpaykar 【名】早春 // 新春 [新春] \* ar 「新?」 paykar 「春」; 《参考》 Arupaikara [arpaykar] 「Very early spring.(早春)」 (B): ar- 「全く、一つの」 (N), paykar 「春」 (N)。 // (天地)(115 オ 01)
- アンチカラ ancikar 【名】夜 // 夜る星有丈 [夜に星があるだけ]; 《参考》 ancikar 「夜」 (N)。 // (天地)(116 オ 07)
- アンメノシケ anmenoske?(<annonoske?) 【名】夜中 // - [和解なし] \* an 「夜」 noske 「中」 ※要検討; 《参考》 annoski 「夜中」 (N)。「メ」に見えるが「ノ」と書くつもりであったのかもしれない。annonoske であれば、「昼」の tononoske 対応させて考えることができる。 // ㊦トノ、シケ、シヤクノシケ。(天地)(116 オ 09)
- アンヤアシカ子 anyaaskane? 【名】父の代 // 始り出 [始まり出る] \* anya? 「始まり?」 asi(n) kane? 「出る」 ※未詳。 // 人倫(121 ウ 02)

- イアニ eani【代名】汝 // 矢持方、矢ハ向へ  
迄る也 [矢を持つ方、矢は向こうへ迄(い  
た)る] \*i(<ay)「矢」ani「持つ」;《参考》  
eani「お前」(H)。和解関連語: ay「矢」  
(N)。// 秋葉翻刻によると「矢は向へそれ  
る也」。人倫(120 オ 11)
- イウタニ iutani【名】参宿 // 杵形図 [杵の  
形図] \*iutani「杵」;《参考》iutani「杵」  
(N)。iyutaninociw「杵星、オリオン座 δεζ」  
(末岡 1979)。// (天地)(111 ウ 10)
- イウンケ iunke?(<iwanke?)【動 1】本腹 //  
達者 [達者] \*iunke?(<iwanke?)「達者」  
※要検討;《参考》iwanke「丈夫である、  
健康である」(N)。// 「本腹」は「快復」  
という意味であろうか。「ウ」は「ワ」の  
書き誤りか写し間違いかもしれない。☞  
キロ、ビリカ。(支體)(126 ウ 06)
- イカシ ekasi/ekas, -i【名】祖父 // 親越テ影  
[親を越えて影] \*ekasi(<ikasi?)「親を  
越えて影?」;《参考》ekasi/ekas, -i「祖父」  
(H)。和解関連語: i「もの」(N), ka, -si「~  
に接して上」(N)。// 人倫(121 ウ 03)
- イカメナシ ikamenas【名】辰 // 彼の寒風  
[あの寒風] \*ik(i)a「その」menas「寒  
風」;《参考》ikamenas「南東風」(沙 H)。  
和解関連語: ikia「その」(Ok), menas「東  
風、南風、北風」(H)。// (天地)(111 オ 01)
- イカラリカムイ ikarari kamuy【動 1・名】  
(星の図⑤)如此星 // 廻り神 [廻る神] \*  
ikarari「廻る」kamuy「神」※要検討 ;  
《参考》ikarkamuy「針千本、コールサク  
ク」(末岡 1979)。和解関連語: ikarari「刺  
繍の仕方の一つ」(N), kamuy「カムイ、  
神」(N)。// (天地)(117 オ 08)
- イコニ ikoni【動 1】疾 // 痛 くさるゝ [痛  
み腐る] \*ikoni「痛み腐る」;《参考》ikoni  
「痛む」(Ky), 「お産する」(T)。// ☞トモ  
ウエン。(支體)(126 ウ 10)
- イセンビル isempir【名】陰 // 夫ニ脊負写る  
[それに背負い写る] \*i「それに」se「背  
負い」pir?「写る?」;《参考》i-「漠然と  
もの」(N), sempir, -(i)ke「~の陰」(N)。  
和解関連語: se「~を背負う」(N)。// (天  
地)(112 ウ 09)
- イタンケンベ itankempe【名】人指 // 椀な  
める [椀を舐める] \*itanki「椀」kem「舐  
める」;《参考》itankikenpe(宗 H)。その  
他多くの北海道方言で itanki  
kemaskepet, -i となる(H): itanki「椀」  
(N), kem「~をなめる」(N), askepet, -  
i「指」(N), pe「もの」(N)。// (支體)(124  
オ 08)
- イトケム etukem【名】鼻血 // 出頭躰解る  
[出て頭わになり体が解る?];《参考》  
etukem「鼻血」(C 人): etu「鼻」(C 人),  
kem「血」(C 人)。// (支體)(126 ウ 07)
- イトラワッカ eturawakka【名】鼻汁(水) //  
はな水 [鼻水] \*etu「鼻」wakka「水」;  
《参考》etu「鼻」(N), ra「下方」(N), wakka  
「水」(N)。eturawakka という語につい  
ては未見。《方言》『方言辞典』の「鼻みず」  
の項目で一番近い語形は etuwakka(八  
H) と etuwahka, -ha(ラ H)。// 「汁」の  
右横に「水」と書入れあり。(支體)(126 ウ  
08)
- イナウリノカー inawri nokaha?【名・名】  
(星の図②)如此星 // 菱實(いなうり)形 [菱  
の実形] \*inawri「菱の実?」nokaha「の  
形」※要検討;《参考》inawri は不明。  
nokaha「~の形を模したもの」(T)。  
inawrunoka「礼冠星、獅子座 αεζη」(末  
岡 1979)。// 最後の文字は繰り返し記号

のようにも見えるが長音符のほうが解釈しやすい。(天地)(117オ03)

イヌカクル inukakur?(<iskakur?)【名】盗人 // 彼隠者〔それ隠す者〕 \* inuka?(<iska?)「それ隠す」kur「者」※要検討;《参考》iska「盗む」(H)。和解関連語: kur「人」(N)。《方言》『方言辞典』によると、北海道の多数の方言で ikka であるが、美幌とライチシカに iska という語形が確認できる。// 「ヌ」と見えるが「ス」の書き誤りか写し間違いであろう。人倫(122オ09)

イヌンベ inunpe【名】燎 // 燃さぬ物〔燃やさない物〕 \* inun?「燃やさぬ?」pe「物」; 《参考》inumpe「炉縁」(N)。和解関連語: pe「もの」(N)。// 「燎」は「かがりび」のこと。☞シイシヨ、ハルキシヨ、ロ、ハ。 (天地)(113オ03)

イヒツノボリ epitnupuri?(<epitce nupuri?)【動1?+名】はげ山 // 焼た山〔焼けた山〕※要検討;《参考》epitce「禿げている」(N), nupuri「山」(N)。// (天地)(114オ06)

イマキ imak, -i【名】齒 // 風味さする〔風味する?〕;《参考》imak, -i「齒」(N)。《方言》imak は北海道東部(帯,美,宗 H) や北千島(Tr)に見られ、樺太ライチシカ(H)でも imah, -kihi となる。北海道西部は nimak や mimak という語形を用いる。// (支體)(125オ01)

イヨシカマレ iyoskamare【動2?】補佐の人 // 清め預る〔清め預かる〕※要検討;《参考》Ioskamare〔ioskamare〕「An argument.(議論)」(B): iyos「あとから」(T), kama「～をまたぐ」(N), -re「～させる」(N)。// 人倫(120オ08)

イリムンブ ermunpu(<erumunpu)【名】(星の図④)如此星 // 鼠蔵〔ネズミの蔵〕 \* ermun「ネズミ」pu「蔵」;《参考》erumunpu「ねずみの庫、蟹座 γδηθ・M44」(末岡 1979)。erumun「ねずみ」(美,釧,白糠 C 動物), pu「倉」(N)。《方言》erumun「ねずみ」(帯,美,宗 H), erum(八,幌,旭,名 H;千 Tr), ermu(沙 H), erumu(ラ H)。// (天地)(117オ07)

イリワケ irwak【名】兄弟 // 同腹の分れ〔同じ腹の分かれ〕;《参考》irwak「兄弟姉妹」(N)。// 人倫(121オ01)

インキアングル inkiankur【名】各様 // 唯者〔唯者〕 \* inkian「唯」kur「者」;《参考》inki-an-kur〔inkiankur〕「何れの人、どの人」(Kb): inki「どの」(T), an「いる」(N), kur「人」(N)。// ☞インキウタレ。 人倫(122オ01)

インキウタレ inkiutar【名】各様 // 唯者〔唯者〕 \* inki「唯」utar「者」;《参考》inkiutar という語は未確認。inki「どの」(T), utar「人々」(T)。// ☞インキアングル。 人倫(122オ02)

インビテクピ inpitekupi?【名?】伸ひる // 芻のばし手〔芻ねのばし手〕※未詳;《参考》tekkup, -i「つばさ、手首」(H)。// (支體)(126オ10)

ウアバ uapa【名】親類 // 一つ戸口〔一つの戸口〕 \* u?「一つの?」apa「戸口」;《参考》apa「親戚」(T)。和解関連語: apa「戸口」(T)。// 人倫(121オ12)

ウーシヤタ usata?【?】庭 // 唯の下た〔唯の下(した)〕※要検討;《参考》Usata〔usata〕「The western side of a fire-place.(囲炉裏の西側)」(B), sata「前に、いろりの方に」(T)。// (天地)(114オ02)

ウカルク ukarku【名】従弟 // 互ノ甥〔互いの甥〕\*u「互いの」karku「甥」※要検討；《参考》ukarku という語形は未確認だが、金沢家文書には、「徒弟 ウカルカ」とある。和解関連語：u「互い(に)」(N), karku「甥」(N)。// 人倫(122 ウ 05)

ウタレ utar【名】従者 // 互持合〔互いに持ち合う〕\*u「互いに～合う」tar(ara)「持つ?」；《参考》utar「人々、～たち」(T), 「親類、一族」(N)。和解関連語：「互い(に)」(N), tarara「～を高く持ち上げている」(T)。// 人倫(122 オ 03)

ウトクエクル utokuyekur (/utokuyekor?)【名】知縁 // 互近付者〔互いに近付く者〕\*u「互いに」tokuye?「近付く?」kur「者」；《参考》utokuyekor「互いに親しく付き合う」(T), utokuyekorpe「友達、友人」(Ky)：u「互い(に)」(N), tokuy, -e「親しい友(<日本語)」、kor「～を持つ」(N)。和解関連語：kur「人」。// 人倫(122 ウ 03)

ウバラ upara?【動 1?】うつく // 互飛逢〔互いに飛びあう〕\*u「互い」para「飛びあう?」※未詳。// (支體)(126 ウ 02)

ウブシヨロ upsor, -o【名】襟 // 自隠内処〔自分が隠れる内のところ〕；《参考》upsor, -o「懐」(N)。《方言》『方言辞典』によると北海道の太平洋側は upsor を用い、美幌および内陸は ussor と報告されている。// 和語見出しの「襟」については判読困難。(支體)(124 ウ 09)

ウホク uhoku【名】夫 // 身互交り〔身が互いに交わり〕；《参考》uhoku という語形は未見。hoku「夫」(N)。// ☞ホク。人倫(121 オ 04)

ウラリ urar【名】霞 // 世界の息〔世界の息〕；《方言》「霧」urar(八,沙,帯,旭,名,宗 H),

uurara(ラ H), hurar(美 H)。// (天地)(107 オ 11)

ウレアサマ ureasam, -a【名】足の裏 // 足下タ〔足の下〕\*ure「足」asam, -a「の下」；《参考》ureasam, -a「足の裏」(N)：ure「足」(N), asam, -a「～の底」(N)。// (支體)(124 オ 02)

ウレボケチウブ urepokecup【名】九月 // 赤色臙〔赤色がおぼろである〕\*ure「赤色」poke「おぼろである?」；《参考》urepokecup「9月」(Ky), urepok「10月」(沙 T; 帯 Y)。// (天地)(115 ウ 04)

ウレメッカ uremekka【名】足の甲 // 足の平上イ〔足の平らな上〕\*ure「足」mekka「平らな上」；《参考》uremekka「足の甲」(H)：ure「足(足首から先)」(N), mekka「～の上側」(N)。// (支體)(124 ウ 02)

ウエデツクル uytekkur【名】使者 // 互ニ云ふ編者〔互いに云う編者〕\*u「互いに」y(e)「云う」tes?「編む?」kur「者」；《参考》Uitek-guru「A servant. Servants.(召使い、使用人)」(B)：uitek〔uytek〕「召使ひ、追使ふ」(Kb), kur「人」(N)。// 人倫(119 ウ 12)

ウヲク uok/uwok【名/動 1】角力 // 互取合ふ〔互いに取り合う〕\*u「互いに」ok(<uk)「取る」；《参考》uwok/ uok「すもう(相撲)」(H)；u「互い(に)」(N), ok「にひつかかる」(T)。和解関連語：uk「～を(手で)取る」(N)。《方言》uwok(八 H), uok(美 H), uhok(帯 H), upoh, -k(樺 H)。このほかに、ukoterke という語形も報告されている。// 人倫(122 ウ 04)

エウバ ewpa【名】ゑな // 彼が朝覆〔あの朝覆う?〕※未詳；《参考》「ゑな」とは「胎盤」のことだが、報告されているアイヌ語



- は ihunkep(美 C 人) などである。カタカナ表記から推測される形では ehewpa 「覗く」(H) が一番近く見えるが不明。// (支體)(125 ウ 07)
- エート etu 【名】鼻 // 長根出 [長い根が出る]; 《参考》etu, -hu 「鼻」(T)。「エー」と長音符がついている理由は不明。// 「エート」の上に「エト」と書いて字消。(支體)(123 ウ 01)
- エシウナ esiwna?(<esna?) 【名/動 1】クシヤミ // 口吹てエシウナといふ [口を吹いてエシウナと言う] \*esiwna 「エシウナ(擬音)?」※要検討; 《参考》esna 「くしゃみをする」(N)。// (支體)(126 オ 09)
- エシン子レフ isinnerep 【名】幽霊ばけ物 // — [和解なし]; 《参考》Ishinnerep [isinnerep] 「化物、変怪」(Kb): isinere 「ばける」(T), p 「もの」(N)。// ☞ヤエシユル。人倫(119 ウ 07)
- エチヤン ecan 【名】堀 // 両岸深 [両岸が深い]; 《参考》Echan [ecan] 「A ditch. (溝, 掘割り)」。// ☞シリウヲリ。(天地)(110 オ 04)
- エボ yupo 【名】兄 // — [和解なし]; 《参考》yupo 「兄」(N): yup 「兄」(N), po 「(名詞に接尾して小さい、年若い~という意味の名詞をつくる。決まった語に現れる)」(T)。// 本項目は、「兄 ユービ」に対して「エボとも云ふ」と書き加えられた箇所。☞ユービ。人倫(120 ウ 05)
- エヨシクル iyoskur 【名】家来 // 付まとふ者 [付きまとう者] \*iyos 「付きまとう」kur 「者」; 《参考》iyos 「あとから、あとで」(T), iyosh [iyos] 「それを追って」(Kb), kur 「人」(N)。// 人倫(118 オ 03)
- エロ、error?/ iror? 【代名?】あなた // 其上座 [その上座] \*e(<i) 「その」ror 「上座」※要検討; 《参考》error/ iror という語が「あなた」を表すというのは未確認だが、上座を指して迂言的に二人称を表した可能性は十分に考えられる。和解関連語:i 「(漠然と)もの」, ror 「上座(横座)の方」(N)。// 人倫(121 ウ 12)
- エントカモイ Ento kamuy 【名・名】公儀 // — [和解なし]; 《参考》endo kamui [Ento kamuy] 「江戸将軍」(Kb): Ento 「江戸(日本語)」, kamuy 「神」(N)。// 「エントカムイ」の「ム」を字消し、「モ」と書入れ。人倫(117 ウ 10)
- ヲカシテ okaste? 【動 1?】浅い // あさい [浅い] ※要検討; 《参考》一致する単語は未見であるが、類似の語形として okasre 「(入れ物が)浅い」(N) がある。// (天地)(112 オ 02)
- ヲカンチリコブ okanci rikop 【名】(星の図③)如此星 // 梶星 [梶の星] \*okanci 「梶(<日本語)」rikop 「星」; 《参考》okanci nociw 「オリオン三星、小三星」(末岡 1979)。Okanchi 「A ship's rudder.(かじ)」, ookanci 「(帆前船の)舵」(ラ H), rikop 「星」(美 H)。// ☞ユワンリコブ。(天地)(117 オ 06)
- ヲキクルミ Okikurmi 【名】源義経 // 御九郎着座(睨と不明) [御九郎が着いた座(確かか不明)]; 《参考》Okikurmi 「カムイユカラの主人公。サマユンクル Samayunkur という相棒と連れ立って登場することが多い」(N)。// ☞シヤバエクル。人倫(119 ウ 05)
- ヲキムンベ okimunpe 【名】山崩洪水(水) // 山より生泉 [山から生じた泉] \*okimun 「山から生じた?」pe 「泉?」; 《参考》

- okimunpe「山津波」(N) : o「～の尻」(N), kim「山」(N), un「～についている」(N), pe「もの」(N)。和解関連語 : pe「水」(N)。 // 「氷」の右に「水」と書き込み。(天地)(110ウ03)
- ヲ克蘭 ukuran【名/副】夜来 // 越タ晩 [越した晩] ; 《参考》ukuran「ゆうべ、晩」(N)。 // (天地)(116ウ10)
- ヲコエマ okoyma/okuyma【名/動1】小便 // 前向続出 [前に向かって続き出る] ; 《参考》okoyma/okuyma「小便する」(H)。《方言》okoyma(旭, 名, 宗 H), okuyma(八, 幌, 沙, 帯 H), okoyse(ヲ H)。 // (支體)(125オ10)
- ヲシマケ<sup>1</sup> osmak, -e【位】蔭 // 跡影 [跡の影] ; 《参考》osmak, -e「(静止しているものの)後ろ」(N)。 // ㊦ヲシマケ<sup>2</sup>。(天地)(112ウ10)
- ヲシマケ<sup>2</sup> osmak, -e【位】後 // 立居物影 [立っている物の影] ; 《参考》osmak, -e「(静止しているものの)後ろ」(N)。 // ㊦ヲシマケ<sup>1</sup>。(支體)(124ウ06)
- ヲシヨロ osor, -o【名】尻 // 続き下ル [続き下る] ; 《参考》osor, -o「尻」(N)。 // (支體)(122ウ08)
- ヲシヨロブイ osorpuuy, -e【名】肛門 // 尻穴 [尻の穴] \*osor「尻」puy, -e「穴」 ; 《参考》osorpuuy, -e「肛門」(H) : osor「尻」, puy, -e「(自然に開いている)穴」(N)。《方言》「肛門」を指す語形は様々あり、osorpuuy のほかに、例えば、yorpuuy(幌, 沙, 名 H) などという語形も観察される。(支體)(125オ05)
- ヲシヨロマ osorma【名/動1】大便 // 尻ニ下り出 [尻に下り出る] \*osor「尻」oma「出る」※要検討 ; 《参考》osoma「大便する」(N)。 // ㊦バツタリ。(支體)(125ウ01)
- ヲタ ota【名+位】砂 // - [和解なし] ; 《参考》ota「砂浜、砂」(N)。 // (天地)(112オ08)
- ヲタウニ otauni【名】砂岸 // - [和解なし] ※要検討 ; 《参考》otauni という語は未見だが、ota「砂」(N), un「にある」(T), i(<hi)「ところ」(N) であろう。 // ㊦シユマウニ。(天地)(113ウ04)
- ヲダシヤム otasam【名+位】浜端 // 砂な端 [砂(すな)の端] \*ota「砂」sam「端」 ; 《参考》otasam「砂浜」(Kb) : ota「砂」(N), sam「～のそば」(N)。 // (天地)(109ウ05)
- ヲツカイ okkay【名】男 // 其上重る [その上に重なる] \*okka(i)「その上に(重なる)」 ; 《参考》okkay「男」(N)。《方言》『方言辞典』によると、北海道と樺太でokkayo という語形が使用され、北海道東部の帯広、美幌、旭川と北千島(Tr)にokkay という語形がある。和解関連語 : okka「～の上」(T) // 人倫(121オ02)
- ヲツカイボ okkaypo【名】男ノ子 // 男子 [男子] \*okkay「男」po「子」 ; 《参考》okkaypo「若者(男)」(N) : okkay「男」(H), po「(名詞に接尾して小さい、年若い～という意味の名詞をつくる。決まった語に現れる)」(T)。 // 人倫(121オ08)
- ヲツトムン ottomun?【名】亥 // 海江吹流て向 [海へ吹き流て向かう] ※未詳。 // (天地)(111オ08)
- ヲトツブ otop【名】髪毛 // 生延切物 [生え延びて切る物] ; 《参考》otop, -i「髪の毛」(H)。《方言》『方言辞典』によると、otop, -i は北海道の多くの方言で見られるが、

- 八雲は *etop, -i* という語形をもつ。樺太は、*ruusis, -cihi* や *sapanuma, -ha* を使用する。// (支體)(123 オ 04)
- ヲトナ *otona* 【名】 酋長 // - [和解なし]; 《参考》 *otona* は、和人が任命したアイヌの役職名「乙名」のことで、日本語。その後、アイヌ語には *ottena* として借入され、「長老格の人物への尊称、和人からのアイヌ人男子への呼称」(N) などとして使用された。// 人倫(121 ウ 07)
- ヲヌマカ *onumaka/onumanka* 【名】 夜前 // 暮影あり [暮れて影あり] \* *num?* 「影?」 *a(n)* 「あり」※要検討; 《参考》 *onumanka* という語形は未見。「夕方」は *onuman* (N)。和解関連語: *an* 「ある」(N)。// (天地)(116 オ 08)
- ヲハコツ *ohakot* 【名】 明き地 // 明地面 [明き地の面] \* *oha* 「明き」 *kot* 「地面?」; 《参考》 *ohakot* 「空き地」(Ky): *oha* 「空である」(N), *kot* 「跡、くぼみ」(N)。// (天地)(113 オ 01)
- ヲハコベ *ohakope* 【名】 津浪 // 岡越水 [岡を越える水] \* *ohako?* 「岡を越える?」 *pe* 「水」; 《参考》 *Ohakobe* [ *ohakope* ] 「A tidal wave.(津波)」。和解関連語: *pe* 「水」(N)。// (天地)(112 オ 06)
- ヲバタツセ *opatatce* 【名/動 1】 痢病 // 破れたらす [破れ垂らす]; 《参考》 *opatatce* 「下痢する(ビチャビチャと)」(T)。// (支體)(126 オ 08)
- ヲハチセ *ohacise* 【名】 明き家 // 明家 [明き家] \* *oha* 「明き」 *cise* 「家」; 《参考》 *ohacise* 「空き家」(T): *oha* 「空である」(N), *cise* 「(建物としての)家」(N)。// (天地)(113 オ 02)
- ヲビチリ *opicir(<opecir)* 【名/動 1】 下痢 // たらす [たらす] \* *opicir(<opecir)* 「たらす」; 《参考》 *opichir* [ *opicir* ] 「下痢(する)」(釧 C 人): *o* 「尻」(C 人), *pe* 「水」(C 人), *chir* [ *cir* ] 「垂れる」(C 人)。// (支體)(126 オ 04)
- ヲブケ *opke* 【名/動 1】 屁 // 留吹投る [留まり吹き投げる]; 《参考》 *opke* 「屁をする」(N)。// (支體)(125 ウ 03)
- ヲベリ *oper* 【名】 女ノ子 // われめあり [われめあり] \* *oper* 「われめあり」; 《参考》 *oper* 「幼児から二十歳前後までの少女や若い女性について言う」(T): *o* 「その尻が」(T), *per(ke)* 「割れている」(T)。// マツ子セカチ、メノコボ。人倫(121 オ 11)
- ヲモヨロ *omoyor?* 【名】 申 // どつと海へ吹おろし [(風が)どつと海へ吹き降ろす] ※未詳。// (天地)(111 オ 05)
- ヲヤシユン *oyasun* 【名/副】 明後日 // 外重る [ほかに重なる] \* *oya* 「ほかに」 *sun?* 「重なる?」※要検討; 《参考》 *oya* 「他の」(N)。《方言》『方言辞典』によると「あさって」は、北海道の大多数の方言で *oyasim*、美幌は *oyasunke*。// (天地)(116 オ 05)
- ヲヤバ *oyapa* 【名】 明年 // 暗の年 [暗の年] \* *oya* 「暗の?」 *pa* 「年」; 《参考》 *oyapa* 「来年」(N): *oya* 「他の」(N), *pa* 「年」(N)。// (天地)(114 ウ 03)
- ヲロシケ *or'uske?* 【名】 平地 // 草木真直ニ立 [草木が真直ぐに立つ] \* *ruske?(<roski?)* 「真っ直ぐに立つ」※未詳; 《参考》 和解関連語: *roski* 「立つ(複数)」(N)。// (天地)(112 ウ 01)
- ヲロソコウタレ *Orokkoutar* 【名】 をりかた辺の者 // 其地持衆 [その地を持つ衆] \* *oro* 「その地」 *ko(r)* 「を持つ」 *utar* 「衆」;

- 《参考》アイヌは樺太のウィルタ族を **Orokko** と呼んだ。utar 「一族」(N)。和解関連語: oro 「(すでに言及された場所について)そこ」(N), kor 「～を持つ」(N)。// 人倫(122 オ 11)
- ヲン子ケ **onneke** 【名】母親 // 半身吞せる [半身を吞ませる]; 《参考》onneke 「母親」(澤井 2006)。《方言》『方言辞典』に **onneke** という語形の記載はないが、十勝(本別) で報告されている(澤井 2006)。また、根室地方の語彙が残されていると考えられる金沢家文書にも、「母」を示す語形として「ヲン子キ」が記載される。(cf. Fukazawa 2012, 深澤 2015) // 人倫(120 ウ 03)
- カイセイ **kaysey** 【名】亡者 // ー[和解なし]; 《参考》kaysey 「死骸、中身が腐って溶けてしまい、皮ばかりになったようなものをいう」(N)。// 人倫(122 オ 07)
- カイベ **kaype** 【名】立浪 // 折る水 [折れる水] \*kay 「折れる」pe 「水」; 《参考》kaype [kaype] 「折れ波、くだけ波、白波」(C 地): kay 「折れる」(N), pe 「もの」(N)。和解関連語: pe 「水」(N)。// (天地)(110 ウ 05)
- カウ\ / **kawkaw** 【名】あられ // 丸くころぶ [丸くころがる]; 《参考》kawkaw 「(空から降る)あられ」(T)。 (天地)(108 ウ 08)
- カブカシケ **kapkaske** 【名】肌 // 皮の上 [皮の上] \*kap 「皮」kaske 「上」; 《参考》kapkaske 「皮膚の表面」(ハ H): kap 「皮」(N), 「～に接して上」(N)。// (支體)(125 オ 02)
- カムイ **kamuy** 【名】神霊 // ー[和解なし]; 《参考》kamuy 「カムイ、神」(N)。// ☞ カモイ。人倫(118 オ 08)
- カモイ **kamuy** 【名】神霊 // 神気 [神の気]; 《参考》kamuy 「カムイ、神」(N)。// ☞ カムイ。人倫(118 オ 07)
- カモイフミ **kamuyhum** 【名】雷 // 神の音 [神の音] \*kamuy 「神」hum 「音」; 《参考》kamuyhum 「雷」(N): kamuy 「カムイ、神」(N), hum 「音」(N)。// (天地)(108 オ 05)
- カルク **karku** 【名】甥 // 重る弟 [重なる弟] \*kar 「重なる?」(a)k 「弟」; 《参考》karku 「甥」(N)。和解関連語: ak 「弟」(N)。// 人倫(120 ウ 13)
- カントウ **kanto** 【名】天 // 其上ニ廻る日 [其の上にもわる日] \*kan- 「其の上にもわる」to 「日」; 《参考》kanto 「天」(N)。和解関連語: kan- 「上の」(N), to 「日」(N)。// ☞ ニシヨロ。(天地)(107 オ 01)
- キシヤラ **kisar, -a** 【名】耳 // 致事助ける [致す事を助ける] \*ki 「為す事」sar? 「助ける?」; 《参考》kisar, -a 「耳」(N)。和解関連語: ki 「～をする」(N)。// ☞ ランブウ。(支體)(123 ウ 04)
- キミタ **kim ta** 【位・格助】山 // 虫毛物居所 [虫や獣がいるところ]; 《参考》kim 「山」(N), ta 「(場所)に」(N)。// ☞ キモロ。(天地)(107 ウ 06)
- キモロ **kimor, -o** 【位】山 // ー[和解なし]; 《参考》kim-or, -o [kimor, -o] 「里または沖合に対して云う山」(C 地): kim 「山」(N), or, -o 「～のところ」(N)。// ☞ キミタ。(天地)(107 ウ 05)
- キロ\ウエン **kirorowen** 【動 1】不快 // 心持悪 [心持ちが悪い] \*kiror, -o 「心持ち」wen 「悪い」; 《参考》kiror, -o 「力」(N), wen 「悪い」(N)。kirorowen については未見である。// ☞ キロ\ビリカ。(支

體)(126 ウ 03)

キロハビリカ kiroropirka【動 1】本腹 // 心持よし [心持ちが良い] \*kiror, -o「心持ち」pirka「良い」;《参考》kiror, -o「力」(N), pirka「良い」(N)。kiroropirka については未見である。類似する語構成を持つ単語に kiroroan(<kiroro-an 力・ある)「おもしろく思う」(T) がある。//「本腹」は、ここでは「快復」という意味のようである。☞イウンケ。(支體)(126 ウ 05)

キンマチヌカルグル kimmacinukarkur?

【名】宵の明星 // 山木原目当ニする [山の木原を目の当たりにする] \*kim「山木原?」cinukar?「目の当たりにする?」※要検討;《参考》末岡(1979)によれば、上原熊次郎の『藻汐草』の「キンマチスグル」についても確実な情報が得られていないようである。Chinukara-guru [cinukarkur]「The north star. (北極星)」(B)。和解関連語: kim「山」(N), ci-「～される、された(中相)」(T), nukar「～を見る」(N)。// (天地)(117 オ 05)

クアニ kuani【代名】吾われ // 弓持方、弓ハ身ニ代也 [弓を持つ方、弓は身に代わる] \*ku「弓」ani「持つ」;《参考》kuani「私」(H)。和解関連語: ku「弓」(N), ani「～を持つ」(N)。《方言》北海道の大多数の方言で kuani が用いられるが、沙流方言では通常 kani という語形が用いられる。// 人倫(120 オ 10)

クツコロウシ kutkorusi【名】腰 // 帯保つ処 [帯を保つところ] \*kut「帯」kor「保つ」usi「ところ」;《参考》kutkoruske「胴まわり、ウエスト」(T): kutkor「帯をしめる」(T), kut「帯」(N), kor「～を持つ」, usi, -ke「～する(した)ところ」(N)。// (支

體)(123 ウ 10)

クドン子 kutunne【動 1?】岩山 // - [和解なし] ※要検討;《参考》Kutunne [kutunne]「Craggy.(岩だらけの)」(B)。// (天地)(108 オ 02)

クリ kur【名】影 // かげ [影] \*kur「影」;《参考》kur「影」(N)。// (天地)(109 オ 10)

クルツベ kuruppe【名】霜 // 夜明て降ル [夜が明けて降る];《参考》kuruppe「霜」(N)。// (天地)(108 オ 04)

クエカエチウブ kuyekaycup/ kuykaycup/ kuwekaycup【名】十一月 // 脊負(此月ハ山狩するをいふにて) [背負う(この月から山狩りをするを言うため)] \*kay「背負う」※要検討;《参考》kuikai [kuykay]「現今の十二月」(帯 Y)。和解関連語: kay「～をおぶう」(N)。// (天地)(115 ウ 06)

クン子ワン kunnewan?(<kunnewa an?)【動 0?】早朝 // 闇朝 [闇の朝] \*kunnewan?「闇の朝?」;《参考》kunnewa(no)「朝」(ハ, 幌, 宗 H), an「ある」(N)。// (天地)(117 オ 01)

ケウシト kewsut, -u【名】伯父 // 体の枝 [体の枝] \*kew「体」sut, -u「枝?」;《参考》広く見られる語形であるが、方言によって用法に違いがある。大きくわけて aca系と kewsut 系の 2つあり、両系を持つ方言も多い: kew「体、骨格」(T), sut, -u「～の根元」(N)。《方言》以下、kewsut 系のみ記載する。kewsut, -u(ハ, 美, 旭 H), kewsut [雅語] (幌 H), kesto(宗 H)。// 和解は「根」のほうが都合が良いが、「枝」のように見える。人倫(120 ウ 08)

ケシマタ kesmata【位?+名】冬の末 // - [和解なし] ※要検討;《参考》kes「末端」(T),

- mata 「冬」。kesmata としては未見。//  
 ☞シヤクケシ。(天地)(115 オ 04)
- ケシヨー keso 【名】入墨 // 形付る [形づける] \*kes 「形?」o 「つける」;《参考》Keso [keso] 「Spotted.(斑点がついている)」(B) : kes 「斑紋」(C 地), o 「(傷が)つく」(T)。// 長音符が繰り返し記号に近く見える。☞シヌウエ。(支體)(123 ウ 07)
- ケナシカ kenas ka 【名・位】谷地 // - [和解なし];《参考》kenas 「木原」ka 「～に接して上」(N)。// ☞サラ。(天地)(107 ウ 07)
- ケマ kema 【名】足 // 縹蹴る [縹蹴る?];《参考》kema 「(人間や擬人化したものの)足(ももから下まで全部、脚)」(T)。// 「縹」は不明。☞チキリ。(支體)(122 ウ 11)
- ケム kem 【名】血 // 躰溜不出 [体に溜まって出ない] \*ke(w) 「体」(m)em 「溜まる」;《参考》kem 「血」(N)。和解関連語 : kew 「体、骨格」(T), mem 「泉」(N)。// (支體)(125 ウ 06)
- コイ koy 【名】浪 // 持来る高水 [持って来る高水] \*ko(r) 「持って来る」(r)i? 「高い」;《参考》koy 「波」(N)。和解関連語 : kor 「～を持つ」(N), ri 「高い」(N)。// (天地)(108 ウ 02)
- コタン kotan 【名】所村 // 持開たる [持って開く] ※ko(r) 「持つ」an? 「開く?」;《参考》kotan 「村」(N)。和解関連語 : kor 「～を持つ」(N), an 「いる、ある」(N)。// (天地)(108 ウ 01)
- コタンウトロ kotan utur, -u 【名・位】境 // 處間 [処の間] \*kotan 「処」 utur, -u 「の間」;《参考》kotan 「村」(N), utur, -u 「～の間」(N)。// ☞シリウトロ。(天地)(109 オ 09)
- コタンカラカムイ kotankar kamuy 【名+動 2・名】阿弥陀如来 // 国拵る神 / 世界人造る神 [国を拵える神 / 世界の人を造る神] \*kotan 「国」 kar 「拵える」 kamuy 「神」;《参考》kotan kar kamuy 「アイヌの国土を作った神様」(Ky)。和解関連語 : kotan 「村」(N), kar 「～を作る」(N), kamuy 「神」(N)。// 人倫(119 オ 03)
- コタンシビ kotansipi 【名+動 1?】所の繁昌 // 所誠ニ肥る [所が誠に肥える] \*kotan 「所」 si 「誠に」 pi 「肥える?」※要検討;《参考》Kotan-shipi [kotansipi] 「A town. Avillage.(町、村)」(B) : kotan 「村」(N), sipi 「蘇生する」(Ky) // 「繁」の右横に「繁」と書き直しあり。// (天地)(112 ウ 05)
- コタンエイバケタ kotan eepaki ta 【名・位・格助】郊 // 處筈 [處の筈(村の端)] \*kotan 「處(村)」 eepaki ta 「端」;《参考》kotan eepak ta 「村のはずれで」(T) : kotan 「村」(N), eepak, -i, -ke 「端」(H), ta 「(場所)で」(N)。// (天地)(114 オ 01)
- コツカバ kokkapa 【名】膝 // - [和解なし];《参考》kokkapa 「ひざ(膝頭)」(H)。《方言》kokkapa(美,屈斜路 C 人; 静 Ok)。kokkapake(帯,美 H)。なお、北海道の大多数の方言は kokkasapa(H) である。// (支體)(124 オ 03)
- コツヲヤケ kotcake 【位】前 // 我近前 [我に近い前];《参考》kotcak, -e 「(静止した物)の前」(N)。// (支體)(124 ウ 07)
- コナルベ konarpe/ konnarpe 【名】伯母 // 情厚者 [情が厚い者];《参考》konnarpe 「伯母」(C 人)。《方言》ももとは、kor unarpe という形であったものであろうが、『知里人間編』によると konnarpe という形は主に北海道東部地域で用いられ

るようである。// 人倫(120 ウ 09)

コボンツ koponci 【名】塵 // 集りきれ物  
〔集まりきれ物〕; 《参考》koponchi  
〔koponci〕「塵埃、土ぼこり、屑」(Kb)。  
// 「塵」は左横に「塵」と書き直し。(天  
地)(117 オ 09)

コヤントノ koyan tono? 【動 2?・名】家中  
// 下る殿〔下る殿〕\*koyan「下る?」tono  
「殿」※要検討; 《参考》koyan「よせ上  
げる、へのぼる」(Kb), tono「殿様、旦那  
(和人の男子を呼ぶ敬称)、役人(<日本語)  
(T)。// 人倫(118 オ 02)

コンル konru 【名】氷 // 金ニ鑄る〔金に鑄  
る〕\*kon「金(日本語)?」ru「溶ける」;  
《参考》konru は、「日本語の「こおり」  
からの借用である可能性」が指摘され(cf.  
中川 1995:195)、宗谷(H)などでは rup  
が「氷」を示す。和解関連語: konkani「金」  
(H), ru「溶ける」(N)。// (天地)(107 オ 10)

サラ sar 【名】谷地 // 葭原〔葭(よし)原〕\*  
sar「葭(よし)原」; 《参考》sar「葦原、ヨ  
シ原」(T)。// ☞ケナシカ。(天地)(107 ウ  
08)

サンダングル Santankur 【名】満江辺地の  
人 // -〔和解なし〕; 《参考》Santa-un-kur  
〔Santaunkur〕「山丹人」(C 人), Santa-  
guru〔Santakur〕「A Manchurian.(満州  
人)」(B)。// 人倫(122 オ 10)

シイシヨ siso 【名】療(右り) // 利手の座〔利  
き手の座〕\*si「利き手の」so「座」; 《参  
考》siso「右座」(T): si「本当の、真の」  
(N), so「座」(T)。// 「療」は「かがりび」  
のこと。☞ハルキシヨ、イヌンベ、ロハ。  
(天地)(113 オ 06)

シイチユク sicuk 【名】中秋 // 熟物食秋〔熟  
れた物を食べる秋〕; 《参考》Shi-chuk

〔sicuk〕「Mid autumn.(仲秋)」(B): si「本  
当の、真の」(N), cuk「秋」(N)。// (天地)(115  
オ 06)

シウルンウタレ sirun'utar? 【名】身方普代  
の者 // 相ノ手の者〔相の手の者〕※未詳;  
《参考》「ウタレ」は utar「〜たち」(N)  
であろうが、「シウルン」が不明。sirun「い  
やしい」(N) だとすると意味が合わなく  
なってしまう。// 人倫(120 オ 07)

シカンカ子フ sikankanep? 【名】髪毛巻目  
// 曲生ひたる物〔曲がって生えている物〕  
\*sikan(<sikari)「曲がって」kane「生え  
ている?」p「物」※要検討; 《参考》  
sikankanep という語については報告が  
ない。和解関連語: sikari「回る」(N), p  
「もの」(N)。// (支體)(124 ウ 08)

シキ sik, -i 【名】眼 // 誠知る事をする〔誠  
を知ることをする〕\*si「誠の」ki「する」;  
《参考》sik, -i「目」(N)。和解関連語: si  
「本当の、真の」(N), ki「〜をする」(N)。  
// (支體)(123 オ 07)

シキシヤウ sikisaw?/ sikisar?(<sikkisar?)  
【名】目じり // 目尻〔目尻〕\*sik「目」  
※要検討; 《参考》sikisaw/ sikisar につ  
いては不明。sik-kisar「目・耳」であらう  
か。目尻を指す語としては、sikkes, -  
e(H) や sik ohonkes(H) などが報告さ  
れている。// 「ウ」は「ラ」の書き誤りか  
写し間違いか。(支體)(123 ウ 02)

シキベンニシ sikpennis 【名】目がしら // 目  
始ル〔目始まる〕\*sik「目」pennis「始  
まる」; 《参考》sikpennis については未見  
だが、語構成は、sik「目」(N), pen-nish  
〔pennis〕「上体(胸や頭を包括していふ)」  
(Kb) であろう。目頭を指す単語には、  
sikpa(C 人) や sikpake (Ok) などの報

告がある。// (支體)(123 ウ 03)

シキラブ sikrap, -u 【名】 睫(マツ)毛 // 眼の羽毛 [目の羽毛] \*sik「目」rap「羽毛」; 《参考》sikrap, -u「まつげ」(N): sik「目」(N), rap「羽」(N)。// (支體)(123 オ 05)

シシヤム sisam 【名】 人 // 誠ノ生レ様 [誠の生まれた様] \*si「誠の」sam「様(日本語?)」; 《参考》sisam「和人」(N): si「自らの」(N), sam「傍ら」(N)。// 人倫(118 ウ 10)

シツテキシヤム sitteksam 【名+位】 湾 // 地手添ふ邊 [地が手を添える辺り] \*sit(<si)「地」tek「手」sam「添える辺り」; 《参考》sitteksam「海岸沿いの所」(T): si「地面」(N), teksam「～の横、～の脇」(T), tek「手」(T), sam「のそば」。// (天地)(113 ウ 06)

シヌウエ sinuye【名/動 1】入墨 // 炭杭る [炭をうつ]; 《参考》sinuye「入墨」(N)。// ☞ケシヨ。 (支體)(123 ウ 06)

シブヤ sipuya 【名】 煙 // - [和解なし]; 《参考》sipuya「煙」(H)。《方言》sipuya(八, 宗 H), supuya(幌, 沙, 帯, 美 H), ape supuya(旭 H), pa(宗 H), paa(ラ H)。// (天地)(112 ウ 06)

シモンテキ simontek 【名】 右手 // 誠ラシイ手 [誠らしい手] \*si-mon?「誠らしい?」tek「手」; 《参考》simontek「右手」(T): simon「右の～」(T), tek「手」(N)。和解関連語: si「本当の、真の」(N)。// (支體)(124 オ 05)

シヤーホ sapo 【名】 姉 // 朝種 [朝種]; 《参考》sapo「姉」(N): sa「姉」(N), po「(名詞に接尾して小さい、年若い～という意味の名詞をつくる。決まった語に現れる)」(T)。「シヤー」と長音符が使われているが、

この語が潜在的に例外アクセントを持つ sápo であることにも注意。和解関連語: piye「～の種」(T)。// 人倫(120 ウ 10)

シヤキ子 sakne 【副】 去年 // 明た先 [明けた先] \*sakne「明けた先?」; 《参考》sakne「去年の夏」(N): sak「夏」(N), ne「に」(N)。// ☞ホシケシヤキ子、ホシケシヤキ子エトコ。// (天地)(114 ウ 04)

シヤク sak 【名】 夏 // 干せる節 [干せる節] \*sa(t)「干せる」-k?「節?」; 《参考》sak「夏」(N)。和解関連語: sat「乾く、乾いた」(N)。// (天地)(114 ウ 09)

シヤクケシ sakkes 【名+位】 夏の末 // - [和解なし]; 《参考》sakkes「晩夏(九月に入ったころ)」(T): sak「夏」(N), kes「末端」(T)。// ☞ケシマタ。(天地)(115 オ 03)

シヤクノシケ saknoske 【名+位】 夏至 // 夏中 [夏中] \*sak「夏」noske「中」; 《参考》saknoski「盛夏(七月半ばから八月)」(T): sak「夏」(N), noski「～のまん中」(N)。《方言》『方言辞典』によると、北海道の大部分の方言は noski であるが、宗谷や樺太ライチシカでは noske という語形が見つかる。また、北千島(Tr) にも noske が見られる。// (天地)(115 オ 02)

シヤバエクル Sapayekur(<Samayekur) 【名】 弁慶 // あたま丸い者 [あたまが丸い者] \*sapaye?「あたまが丸い?」kur「者」※要検討; 《参考》Samaikur [Samaykur]「英雄神」(帯 Y), Samayekur (C 地)。沙流・千歳方言では Samayunkur(T; N) と言う。// ☞ヲキクルミ。人倫(119 ウ 06)

シヤンベ sampe 【名】 心 // 本案物 [本案の物] \*s(i)an「本案の」pe「物」; 《参考》sampe「心臓、心」(N)。和解関連語: sian「本当の、真の」[雅語] (C 地), si「本当



の」(N), an 「ある」(N), pe 「もの」(N)。

// (支體)(125 オ 03)

シユ\タエ susutay 【名】柳原 // 穴有木原 [穴がある木原] \*susu 「穴がある?」 tay 「木原」; 《参考》susu 「柳」(N), tay 「林のように林立したもの」(N)。和解関連語: suy 「(人為的に掘ったりしてできた)穴」(N)。// 「木」は字消して左に書入れされたもの。(天地)(113 ウ 02)

シユクエタチウブ sukuytacup 【名】四月 // 浅じきぬく [アサツキ(エゾネギ)抜く] \*sukuy 「アサツキ?」 ta 「抜く」; 《参考》sikiutacup 「4 月」(Ky), shikiutachup [sikiwtacup] 「五月」(帯 Y): cup 「(時間としての)月」(N)。sikiw という植物が何かは不明。// (天地)(115 オ 10)

シユシユルブ susurup?(<susirup <sirsirup) 【名】軽石 // 鍋摺物 [鍋を摺る物] \*susuru?(<sirsiru) 「(鍋)を摺る」p 「物」※要検討; 《方言》「軽石」susirup(旭 C 地), sissirup(幌 C 地): sirsiru 「～をこする」(T), p 「もの」(N)。// (天地)(109 ウ 03)

シユツ sut, -i 【名】祖母 // 又上の母 [また上の母]; 《参考》sut, -i 「祖母」(N)。// 人倫(121 ウ 04)

シユナンチウブ sunancup 【名】十月 // 樺明し狩、此月夜る樺を明し川狩するをいふ [樺を灯して狩、この月は夜に樺を灯して川で狩りをすることを言う] \*sun(e) 「樺の灯り」an 「ある」; 《参考》Shunanchup [sunancup] 「The space of time comprising the latter part of November and the first part of December during which time the Ainu catch salmon by first attracting them with lights or

torches called shune. (アイヌが shune という松明を灯して鮭漁をする 11 月下旬から 12 月の初めの時期)」(B), shuneanchup [suneanchup] 「十一月」(帯 Y): sune 「(カンビ(樺)の皮を燃やす)明り」(T), an 「ある」(N), cup 「(時間としての)月」(N)。// (天地)(115 ウ 05)

シユニホラクチウブ sunihoracup/sinihoracup 【名】八月 // 木葉枯落る [木の葉が枯れて落ちる] \*suni/sini? 「木の葉?」 horak 「枯れて落ちる」; 《参考》shiniorak [siniorak] 「下葉のおつること、九月」(帯 Y): horak 「崩れ落ちる、倒れる」(N), cup 「(時間としての)月」(N)。// (天地)(115 ウ 03)

シユマ suma 【名】石 // 穴明けられぬ [穴をあけられない]; 《参考》suma 「石」(N)。// ☞ホイナ。// (天地)(109 ウ 01)

シユマウタチウブ sumawtacup/simawtacup 【名】六月 // 熟浜梨 [熟れたハマナス] \*sumawta/simawta 「熟れたハマナス?」; 《参考》simawtacup 「6 月」(Ky), shimautachup [simawtacup] 「七月」(帯 Y): si 「大きい」(T), maw 「ハマナス」(N), ta 「～を掘る」(N), cup 「(時間としての)月」(N)。// (天地)(115 ウ 01)

シユマウニ sumauni 【名】石岸 // - [和解なし] ※要検討; 《参考》sumauni という語は未見だが、suma 「石」(N), un 「にある」(T), i(<hi) 「ところ」(N)であろう。// ☞ヲタウニ。(天地)(113 ウ 05)

シユムグル sumkur(<sumunkur) 【名】西の蝦夷 // 西の者 [西の者] \*sum 「西」kur 「者」; 《参考》sum 「西」(T), un 「～に住む」(N), kur 「人」(N)。// 人倫(119 オ 05)

シユムレラ sumrera 【名】西(西風落る海ニ

- 湧立) // 湧風 [湧く風]; 《参考》 sumrera 「西風」(八, 幌, 沙, 名 H)。 // 和語見出しの注記は「西風が落ちて海に湧き立つ」。(天地)(111 オ 06)
- シユンケンベ sumkempe 【名】 薬指 // 油なめる指 [油をなめる指] \*sum 「油」 kem 「なめる」 pe 「指」; 《参考》 sumkempe は未見。類似する語に kusuriaskepet, -i 「薬指」(幌, 宗 H) はあるが、これは日本語からの翻訳借用と考えられる: kusuri 「薬(<日本語)」(T), askepet, -i 「指」(N)。和解関連語: sum 「あぶら、油脂」(N), kem 「～をなめる」(N), pe 「もの」(N)。 // (支體)(124 オ 10)
- シヨモハンケ somo hanke 【否定・動 1】 不近 // 不近 [近くない] \*somo 「不」 hanke 「近」; 《参考》 somo 「～(で)ない」(N), hanke 「近い」(N)。 // (天地)(113 ウ 10)
- シラリシヤツ sirar sat 【名・動 1】 汐干 // 水かぶり処干 [水が被ったところを干す]; 《参考》 sirar sat 「潮が引く」(八 H): sirar 「岩、磯」(N), sat 「乾く」(N)。 // (天地)(112 オ 04)
- シリウトロ sir'utur, -u 【名+位】 境 // 地間 [地の間] \*sir 「地」 utur, -u 「の間」; 《参考》 sir-utur, -u [sirutur, -u] 「二地の中間、村と村との中間の地」(C 地): sir 「地面」(N), utur, -u 「～の間」(N)。 // ☞ コタンウトロ。(天地)(109 オ 08)
- シリウヲリ sir'ouri 【名/動 1】 堀 // 地堀 [地の堀] \*sir 「地」 ouri 「掘」; 《参考》 sirouri 「穴を掘る」(N): sir 「地面」(N), ouri 「～を掘る」(N)。 // ☞ エチヤン。(天地)(110 オ 05)
- シリカタ sirka ta 【位・格助】 地 // 下ニ片寄 [下に片寄る]; 《参考》 sirka 「地面」(N), ta 「(場所)に」(N)。 // ☞ ペケンモシリ。(天地)(107 オ 03)
- シリキタイ sirkitay 【名】 峯 // 地峯 [地の峯] \*sir 「地」 kitay 「峯」; 《参考》 sirkitay [sirkitay] 「山頂」(C 地): sir 「地面」(N), kitay 「～のてっぺん」(N)。 // (天地)(111 オ 09)
- シリコトル sirkotor, -o 【名+位】 坂 // 地縁段 [地の縁の段] \*sir 「地」 kotor, -o 「縁段」; 《参考》 sir-kotor, -o [sirkotor, -o] 「山腹の傾斜地、山の斜面」(C 地): sir 「地面」(N), kotor, -o 「～の面」(N)。 // (天地)(110 オ 07)
- シリシユムイ sirsumuy?(< sirsimoye) 【動 0】 地震 // 地動く [地が動く] \*sir 「地」 sumuy?(<simoye) 「動く」 ※要検討; 《参考》 sirsimoye 「地震が起こる」(T): sir 「地面」(N), shimoye [simoye] 「揺れ動く」(Kb)。《方言》 sirsum(帯 H), siri sumii(千 Tr)。 // (天地)(108 ウ 07)
- シリタン子 sirtanne?/ sirkunne? 【動 0】 日暮 // 世界、地暮し [世界、地が暮れる] \*sir 「世界、地」 tanne? 「暮れる?」 ※要検討; 《参考》 sirtanne は未見。和解関連語: tanne 「長い」(N)。「タ」が「ク」の写し間違いか何かであれば、sirkunne 「夜になる」(N): sir 「あたり」(N), kunne 「暗くなる」(N)。 // 「世」の右横に「地」と書入れ。(天地)(116 オ 11)
- シリヌブカロン子 sirnupkaonne 【名】 曠野 // 地草平大 [地の草が平たく大きい?] \*sir 「地」 nupka 「草平?」 onne 「大きい」 ※要検討; 《参考》 sirnupkaonne という語形は未見。sir 「地面」(N), nupka 「野原」(幌, 美 H), onne 「大きい」(C 地)。 // (天地)(113 ウ 01)

シリエト sir'etu【名】崎//地の鼻〔地の鼻〕  
\*sir「地」etu「鼻」;《参考》sir-etu〔siretu〕  
「みさき」(C地):sir「地」(C地),etu「鼻」  
(C地)。// (天地)(108オ03)

シリヲヌマン sir'onuman【動0】夕方//世界、地暮方〔世界、地の暮れ方〕\*sir「世界、地」onuman「暮れ方」;《参考》sironuman「夕方になる」(N):sir「あたり」(N),onuman「夕方」(N)。// 「世」の右横に「地」と書入れ。// (天地)(116オ10)

シル、sirur【名】陽海//日方の水〔日方の水〕\*si「日方の?」rur「水」;《参考》Shiruru〔sirur〕「The ocean.(海洋)」(B):si「本当の、真の」(N),rur「海の潮」(N)。// (天地)(109オ06)

シルンクル sirunkur【名】貧者//末座ニ居者〔末座に居る者〕\*sirun「末座に居る?」kur「者」;《参考》Shirun-guru〔sirunkur〕「A poor person. An unprincipled person.(貧乏者、無節操な人)」(B):sirun「いやしい」(N),kur「人」(N)。// 人倫(119ウ13)

シエーグル siyeyekur【名】病人//病者〔病者〕\*siyeye「病」kur「者」;《参考》siyeye「病気である」(T),kur「人」(N)。// 人倫(122オ06)

スチャグル Sucakur【名】ヲロシヤ東北辺人//世界椽の者、北夷地の言葉〔世界の椽(ふち)の者、北夷地の言葉〕\*su(<rir)「世界」ca「椽(ふち)」kur「者」;《参考》Sucakurは不明であるが、nuca「ロシア人」(樺H)というのがある。和解関連語:sir「あたり、大地」(N)。// 人倫(122オ12)

セウレ sewre/sewri【名】咽//広からず〔広くない〕;《参考》sewri「のど、気管」(八、

沙,旭,名H),sewreh,-pihi「気管」(ラH)。// (支體)(123ウ09)

セカチ sekaci(<hekaci)【名】若い者//〔和解なし〕;《参考》hekaci「男の子」(N)。sekaciという形は吉田巖(1989)が収録しているが、/h/と/s/の交替として考えるべきかどうかは未だ明確ではない。特に伝蔵は秋田県出身であることから、母語干渉によって/he/を/se/と聞いた可能性もある(深澤 2014:69f)。// 人倫(121ウ08)

セ、カ seseka【動2】湯//燃したる〔燃やした〕;《参考》sesekka「~を熱くする、~を沸かす、~を温める。」(T)。// ☞セ、ク。(天地)(114オ09)

セ、ク sesek【動1】熱//燃る〔燃える〕;《参考》sesek「熱い、暑い」(N)。// ☞セ、カ。(天地)(114オ08)

セツトンバ settompa【名】墓所//〔和解なし〕;《参考》settompa「墓、墓地」(Ky)。// (天地)(117ウ05)

セトル setur,-u【名】脊//広キ間ニ堺るゝ〔広い間に堺をする〕\*se「広い?」(u)tur「間」;《参考》setur,-u「背中」(N)。和解関連語:se「~を背負う」(N),utur「~の間」(N)。// 和解の「るゝ」は判読困難。(支體)(123ウ08)

セリマケ sermak【名】先祖//代々の影〔代々の影〕;《参考》sermak「守護神、背後」(N)。// 人倫(121ウ01)

センビシシヤモ senpisisamo(<kampisiam)【名】筆者//〔和解なし〕※要検討;《参考》kampi「紙、書類、手紙、読み書き、学問(<日本語)」(T),siam「和人」(N)。// 「セ」は「カ」の書き間違いか写し間違いである可能性がある。人倫(119

ウ 02)

タツコビ takkop, -i/tapkop, -i【名】森 // 国のはれ物〔国の腫物〕;《参考》takkop, -i「ヤチポーズ」(様似 C 地), tapkop, -i「離れてぽつんと立っている円山、孤山、孤峰(C 地)。 // (天地)(112 ウ 02)

タブシユス tapsus, -u?(<tapsut, -u)【名】肩 // 取物かつく〔取った物を担ぐ〕※要検討;《参考》tapusut, -u「肩」(H)。tapsus, -u は未見。《方言》tapsut, -u(幌, 沙 H; タライカ C 人), kukew, -e(八, 帯, 美, 旭, 名 H)。 // (支體)(123 オ 08)

タント tanto【名/副】今日 // 此日日〔この日の日〕 \*tan「この」 to「日」;《参考》tanto「今日」(N): tan「この」(N), to「日」(N)。 // (天地)(116 オ 01)

タンバ tanpa【名】當年 // 爰ニ覆年〔爰(ここ)に覆う年〕 \*ta「ここに」(a)n「覆う?」 pa「年」;《参考》tanpa「今年」(N): tan「この」(N), pa「年」(N)。和解関連語: ta「ここ」(N), an「ある」(N)。 // (天地)(114 ウ 02)

タ子 tane【副】今 // 爰ニ是〔爰(ここ)に是〕 \*ta「ここに」ne「是?」;《参考》tane「今」(N)。和解関連語: ta「ここ」(N), ne「～である」(N)。 // (天地)(114 ウ 01)

チイ ci, -ye【名】陰莖 // 筋延る〔筋がのびる〕 \*ci?「筋?」;《参考》ci, -ye「陰莖」(N)。 // (支體)(125 オ 06)

チウイロフ cuyrup【名】十二月 // 汐水肥る〔汐水が肥える〕 \*cuy「汐水」 rup「肥える」※要検討;《参考》curup「十二月」(帯 Y), chirup〔cirup〕「現今の一ヶ月」(帯 Y)。和解関連語: cuy「潮」(美 H), rupne「体が大きい」(N)。 // 「肥」は秋葉翻刻によると「醜」。 (天地)(115 ウ 07)

チウイエン ciw yen?(<ciw yan?)【名・動 1】汐満 // 汐入込〔汐が入り込む〕 \*ciw「汐」 yen?(<yan?)「入り込む?」※要検討;《参考》ciw yan「潮が満ちる」(宗 H): ciw「水流」(N), yan「陸に上がる」(N)。 // (天地)(112 オ 05)

チウク cuk【名】秋 // 汐節〔汐の節〕 \*cuy「汐」-k?「節?」;《参考》cuk「秋」(N)。和解関連語: cuy「潮」(美 H)。 // (天地)(114 ウ 10)

チウツクカモイ cukkamuy/ cup\_ kamuy【名/名・名】月 // 汐ニ應て満半月となる〔汐に応じて満半月となる〕;《参考》cupkamuy「日の神、月の神」(Ky)。 // (天地)(107 ウ 03)

チウツフシカリ cupsikari【名+動 1】中旬 // 月丸〔月が丸い〕 \*cup「月」 sikari「丸い」;《参考》cupsikari「満月、月が丸い」(Ky): cup「(天体としての)月」(N), sikari「丸い」(T)。 // (天地)(115 ウ 09)

チウツフニン cupnin【名+動 1】下旬 // 月減〔月が減る〕 \*cup「月」 nin「減る」;《参考》nin chup〔nincup〕「新月」(Kb): cup「(天体としての)月」(N), nin「減る」(T)。 // (天地)(115 ウ 10)

チウフケ cupki【動 1?】影 // 月日のかけ〔月日の影〕 \*cup「月日」 ki/ke?「影?」;《参考》cupki「日の光、輝く」(Ky): cup「(天体としての)月」, ki「～をする」(N)。 // (天地)(109 オ 11)

チカイ子ブ cikaynep【名】戌 // せがひの角より〔世界の角(すみ)から〕 \*cikay?「世界(日本語)?」 nep?「角から?」;《参考》cikayneh, -pihi「北風」。 // (天地)(111 オ 07)

チキナ cikna【名/動 1】雫 // たる落る〔た

れ落ちる] \*cikna「たれ落ちる」;《参考》  
cikna「したたり落ちている」(Ky)。//「た」  
の右上に濁点のようなものが見える。(天  
地)(110 オ 10)

チキリ cikir, -i【名】足 // 我居ニ任ス〔我が  
居るのを任せる〕;《参考》cikir, -i「(人間  
以外の動物の、机等の)足(ももから先まで  
全部)」(T)。// 秋葉翻刻には和訳が記載漏  
れ。☞ケマ。(支體)(122 ウ 12)

チクサグル cikusakur【名】牽牛(空の渡守)  
// —〔和訳なし〕;《参考》cikusakur「舟  
人、蟹座 α、アルタイル」(末岡 1979)。  
Chikusa-guru「The herd-boy star. Also  
a ferryman.(牽牛、渡し守)」: ci-「～され  
る、～された(中相)」(T), kusa「(舟で)～  
を渡す」(N), kur「人」(N)。// (天地)(111  
ウ 08)

チセコツ cisekot【名】屋敷 // 家地面〔家の  
地面〕\*cise「家」kot「地面?」;《参考》  
cisekot「家の跡、以前に家が建っていた  
跡」(Ky): cise「(建物としての)家」(N),  
kot「跡、くぼみ」(N)。// (天地)(112 オ 10)

チセコツカモイ cisekotkamuy【名】蝦夷地  
上古の人 // 家穴地神〔家の穴地の神〕\*  
cise「家」kot「穴地」kamuy「神」;《参  
考》cisekot「家の跡、以前に家が建っ  
ていた跡」(Ky): cise「(建物としての)家」  
(N), kot「跡、くぼみ」(N), kamuy「神」  
(N)。// 人倫(119 ウ 04)

チッツ cit, -i/citci?【名】陰門 // 筋勝〔筋に  
勝つ?〕\*ci?「筋?」※要検討;《参考》cit,  
-i「膺」(Kb)。所属形は cici が予測され  
るが、カタカナ表記から推定される形は  
citci。// 本項目は、「陰門 ボキ」に対し  
て「チッツ共云う」とある箇所。☞ボキ。  
(支體)(125 オ 09)

チホヲグル cipokur【名】船方 // 船乗者〔船  
に乗る者〕\*cip「船」o「に乗る」kur「者」;  
《参考》cip「舟」(N), o「～に乗る」(N),  
kur「人」(N)。// 人倫(119 オ 09)

チマイレカムイ cimayre kamuy【名】天子  
// 暖メ食をする神〔あたためて食事をす  
る神〕\*cimayre(<ci-ma-ere?)「あたため  
て食事をする?」kamuy「神」※要検討;  
《参考》Chimaire-kamui〔cimayre  
kamuy〕「The Emperor of Japan.(日本天  
皇)」: ci-「～される、～された(中相)」(T),  
Maire〔mayre〕「To go to pay respects to  
(as to a governour.(参る))」(B), kamuy「神」  
(N)。和訳関連語: ci-「～される、された  
(中相)」(T), ma「～を焼く」(N), ere「～  
に～を食べさせる」(T)。// 人倫(117 ウ 09)

チヤ\ / caca【名】翁 // 崩れこぼる〔崩れ  
こぼれる〕\*ca(t)ca(ri)「崩れこぼれる?」;  
《参考》caca「おじいさん」(H)。和訳関  
連語: catcari「まき散らす、ばらまく」  
(T)。// 人倫(121 ウ 06)

チヤウングル caunkur【名】夫 // 口を拵者、  
女房の其夫を呼ニかきる也〔口を拵える  
者、女房がその夫を呼ぶに限る〕\*ca「口」  
un「拵える?」kur「者」;《参考》caunkur  
そのものの単語は未見であるが、ca が  
pa で実現した形式が確認される。ca と  
pa は「口」を表す語根であり、北海道東  
部は ca 系を用いる。Paunguru  
〔paunkur〕「A wise person. A chief.(賢  
者、長)」(B): pa「口」(T), un「にある」  
(T), kur「人」(N)。// 人倫(121 ウ 05)

チヤブシ capus, -i【名】唇 // 上口縁〔上唇〕  
\*capus, -i「唇」;《参考》capus, -i「唇」  
(H)。《方言》北海道の東部や樺太は capus,  
-i を使用するが、西部では papus, -i を

- 用いる。// ☞ボキナチャブシ。(支體)(123オ09)
- チャロ car, -o【名】口// われ捌処〔我が捌くところ〕\*ca「我が捌く?」(o)r「処」; 《参考》car, -o「口」(H)。和解関連語: ca「~を切りとる」(T), or, -o「~のところ」(N)。《方言》「口」という意味を持つcaとpaはアイヌ語方言においてははっきりとした東西分布を示す。そのうち、caは樺太や北千島を含めた西側の語形に見られる (cf. 中川 1996, Fukazawa 2014)。// (支體)(124ウ10)
- チュッフカタウタレ cupkautar【名】東嶋の蝦夷// 東方者〔東方の者〕\*cupka「東方」utar「者」; 《参考》cupka「東」(N), utar「一族」(N)。// 人倫(119オ07)
- チュップキ cupki【動1?】映// 日足〔日の足〕\*cup「日」ki?「足?」; 《参考》cupki「日の光、輝く」(Ky): cup「太陽、月」(N), ki「~をする」(N)。// ☞チウフケ。(天地)(110ウ01)
- チュッフハウシ cuppawsi【名+動2?】暮六ツ時// 日大ニ成〔日が大きくなる〕\*cup「日」pawsi「大きくなる?」※要検討; 《参考》cup「(天体としての)太陽」(N), Paushi [pausi]「To put on the head.(かぶる)」(B)。// (天地)(116ウ08)
- チュッフホ子、cuphonene【名+動1】昼八ツ時// 日廻る〔日が廻る〕\*cup「日」honene「廻る」; 《参考》cup「(天体としての)太陽」(N), honene「回る、向きが変わる」(T), Honene [honene]「The middle of the afternoon.(午後のまんなか)」(B)。// (天地)(116ウ06)
- チュツブライ cupray【名+動1】交蝕// 日死〔太陽が死ぬ〕\*cup「太陽」ray「死ぬ」; 《参考》cupray「日食、月食」(Ky): cup「(天体としての)太陽」(N), ray「死ぬ」(N)。// (天地)(110ウ04)
- チュツブラン cupran【名+動1】晩七ツ時// 日さがる〔日がさがる〕\*cup「日」ran「さがる」; 《参考》cupran「陽が落ちる、日没」(Ky): cup「(天体としての)太陽」(N), ran「下りる」(N)。// (天地)(116ウ07)
- チュツブリエ cupri【名+動1】朝四ツ時// 日高い〔日が高い〕\*cup「日」ri「高い」; 《参考》cupri「日が出る、日が高い」(Ky): cup「(天体としての)太陽」(N), ri「高い」(N)。// (天地)(116ウ04)
- チュップヲホツタラ cup'ohottar?【名+動1?】朝五ツ時// 日深き方上ル〔日が深いところからのぼる〕\*cup「日」ohot「深い」tara「上げる」※要検討; 《参考》cup「(天体としての)太陽」(N), ohot「深い」(Kb), (i)tara「~の状態である」(N)。和解関連語: tarara「~を高く持ちあげている」(T) // (天地)(116ウ03)
- チヨカエ ciyokay/ ciokay【代名】此方// 〔和解なし〕; 《参考》ciokay「わたしたち(除外形)」(H)。《方言》北海道の大部分の方言で ciokay だが、いくつかの方言では縮約された形を用いる: coka(沙 H), cokay(宗)。// 人倫(121ウ10)
- テイ子トエ teynetoy【動1+名】泥// 濡土〔濡れた土〕\*teyne「濡れた」toy「土」; 《参考》teynetoy「泥」(名 H): teyne「ぬれた」(T), toy「土」(N)。// (天地)(114オ05)
- テイ子ホキナシリ teynepoknasir, -i【名】地獄// 濡たる別世の地〔濡れたべ別世の地〕\*teyne「濡れた」poknasir, -i「別世

- の地」；《参考》 teyne-poknasir, -i [teynepoknasir, -i] 「じめじめした下界」の意、悪人の霊が死後に行く世界」(C 地) : teyne 「ぬれた」(T), poknasir 「あの世、地獄」(N)。 // ☞ ボキナシリ。(天地)(117 ウ 03)
- テキ tek, -e 【名】手 // - [和解なし] ; 《参考》 tek, -e 「手」(N)。 // (支體)(122 ウ 10)
- テケ子ベツ tekene pet 【動 1・名】枝川 // 手川 [手の川] \*teke 「手」 ne 「(の)」 pet 「川」 ; 《参考》 tek, -e 「手」(N), ne 「～である」(N), pet 「川」(N)。 // (天地)(110 オ 08)
- テツコトロ tekkotor, -o 【名】掌 // 手内の間 [手の内の間] \*tek 「手」 kotor, -o 「内の間」 ; 《参考》 tekkotor, -o 「手のひら」(N) : tek 「手」(N), kotor, -o 「～の面」(N)。 // (支體)(124 オ 04)
- テン子ブ tennep 【名】赤子 // 濡物 [濡れた物] \*tenne(<teyne) 「濡れた」 p 「物」 ; 《参考》 tennep 「赤ん坊」(N) : teyne 「ぬれている」(T), p 「もの」(T)。 // 人倫(120 オ 03)
- トイ toy 【名】土 // - [和解なし] ; 《参考》 toy 「土」(N)。 // (天地)(107 オ 05)
- トウケシ tokes 【名】晩方 // 日末 [日の末] \*to 「日」 kes 「末」 ; 《参考》 tokes 「日暮れ時、夕方、晩方」(T) : to 「日」(N), kes 「末端」(T)。 // (天地)(116 ウ 09)
- トウタン子チウブ totannecup 【名】正月 // 日長く成 [日長くなる] \*to 「日」 tanne 「長くなる」 ※要検討 ; 《参考》 toetannecup 「1月」(Ky), Toitanne-chup [toytannecup] 「The month of January.(1月)」(B), toetanne 「二月」(帯 Y) : to 「日」(N), tanne 「長い」(N), cup 「(時間としての)月」(N)。 // (天地)(115 オ 07)
- トウヒクツ topikut? 【名】首 // 吞渭下ケ [呑んで胃に下げる?] ※未詳。 // (支體)(122 ウ 06)
- トー to 【名】沼 // - [和解なし] ; 《参考》 to 「湖、沼」(N)。 // (天地)(108 ウ 06)
- トーカブ tokap 【名】乳 // ニつ並皮袋 [二つ並ぶ皮の袋] \*to(<tu) 「二つ」 kap 「袋」 ; 《参考》 tokap 「乳房」(C 人) : to 「乳房」(C 人), kap 「皮」(C 人)。「トー」と長音符が用いられているが、この語は潜在的に例外アクセントをもっており、tókap となる。和解関連語 : tu 「二つの」(N)。 // (支體)(124 オ 11)
- トーベケレ topeker 【動 0?】暁 // 日明 [日の明かり] \*to 「日」 peker 「明かり」 ; 《参考》 To-pekere [topeker] 「In the morning.(朝)」(B) : to 「日」(N), peker 「明るい」(N)。 // (天地)(116 ウ 01)
- トクセイ toksey 【名】屨(タコ) // 出テ平たへ [出て平たい] \*tok 「出る」 se 「平たい?」 ; 《参考》 toksey で「たこ」を表すことについては未見であるが、tokse-i [toksey] 「こぶのように凸起している山」(C 地) という報告がある。setur, -u tokse は「せむし」(C 人) : setur 「背」(C 人), tokse 「突出している」(C 人)。和解関連語 : tok 「突出る」(Kb), se 「～を背負う」(N)。 // (支體)(124 ウ 05)
- トコンホ子 tokonpone/tokompone 【名】黒ぶし // 森骨 [森の(ような)骨] \*tokon/ tokom 「森」 pone 「骨」 ; 《参考》 tokompone 「くるぶし」(N) : tokon 「こぶ」(N), pone 「骨」(N)。和解関連語 : tokom 「小山」(C 地)。 // (支體)(124 ウ 04)

トシユシケ *tususke* 【名/動 1】身躰 // ぶる  
 \／脊負〔ぶるぶる背負う〕\**tususke*「ぶ  
 るぶる背負う」;《参考》*tususke*「(病気な  
 どで)ふるえる」(N)。// (支體)(126 ウ 01)

トタン *totan?*(*<tutan?*)【動 1?】近所 // 沼続  
 く〔沼が続く〕\**to*「沼」*tan?*「続く?」  
 ※要検討;《参考》*tutan*「次の、第二の、  
 副の」(Kb)。// (天地)(117 ウ 07)

トツク *tuk* 【動 1】瘡 // 出身能〔出る身能く  
 なる〕\**tuk*「出る」;《参考》*tuk*「(木が)  
 伸びる、(傷口が治って)盛り上がる」(N)。  
 // (支體)(126 ウ 04)

トノ *tono* 【名】武士 // —〔和解なし〕;《参  
 考》*tono*「殿様、旦那(和人の男子を呼ぶ  
 敬称)、役人(<日本語)」(T)。// 人倫(118 オ  
 04)

トノ、シケ<sup>1</sup> *tononoske* 【名】昼 // 日中〔日  
 中〕\**to*「日」*no-noski*「中」;《参考》  
*tononoski/toonoske*「正午」(H)。《方言》  
*tononoski*(八,宗 H), *tonanoski*(美, 名 H),  
*toonoske*(ラ H) など。語源は不明だが、  
 もともとは *tono* で「日中」だったのが化  
 石化し、再び *noski*「~のまん中」(N) を  
 付加した形になったものかもしれない。  
 短縮形に *tonoski*(幌,沙, 旭 H) などがあ  
 る。(cf. Fukazawa 2015) // ☞シヤクノシ  
 ケ、アンメノシケ、トノ、シケ<sup>2</sup>。(天  
 地)(116 オ 06)

トノ、シケ<sup>2</sup> *tononoske* 【名】昼九ツ時 // 日  
 中〔日中〕\**to*「日」*no-noske*「中」;《参  
 考》*tononoski/toonoske*「正午」(H)。//  
 ☞アンメノシケ、トノ、シケ<sup>1</sup>。(天地)(116  
 ウ 05)

トビシケ *topiske/ topiski* 【名/動 1】瘡(ヲ  
 コリ) // 日隔かぞへる〔日の間隔を数え  
 る〕\**to*「日」*piske*「数える」;《参考》

*topishike shiyeye* [*topiske siyeye*]「瘡の  
 病」(Kb), *topiski*「マラリア、おこり」(美,  
 屈斜路 C 人): *to*「日」(C 人), *piski*「数え  
 る」(C 人)。「瘡(おこり)」が隔日で発熱す  
 ることに由来すると考えられる。// (支  
 體)(126 オ 03)

トブセ *topse* 【名】涎 // 急吹出シ〔急に吹き  
 出す〕;《参考》「涎」は「よだれ」である  
 が、その意味では未見。*topse*「ペツとつ  
 ばを吐く」(N)。// (支體)(125 ウ 05)

トフラブ *toprap?*【名】二月 // 枯草庭を萌出  
 ル月〔枯草の庭から萌え出る月〕;《参考》  
*hap-rap* [*haprap*]「二月」(Kb), *haprap*  
 「現今の三月」(帯 Y)。// 「ト」は「ハ」  
 の写し間違いかもしれない。(天地)(115  
 オ 08)

トベ *tope* 【名】乳汁 // むまひ〔甘い〕\*  
*tope(n)*「甘い」;《参考》*tope*「乳汁、ミ  
 ルク(人のも獣のも)」(T): *to*「乳房」(T),  
*pe*「汁」(T)。和解関連語: *topen*「甘い」  
 (N)。// (支體)(124 オ 12)

トマウタレ *tomautar?* 【名】敵 // あふなく  
 物〔あぶない物?〕\**toma?*「あぶない?」  
*utar*「物?」※未詳。// 和語見出しの「敵」  
 は、原文で「敵」。人倫(120 オ 06)

トマリ *tomari* 【名】泊 // —〔和解なし〕;《参  
 考》*tomari*「港」(N)。// (天地)(108 ウ 10)

トモウエン *tomowen*【動 1】疾 // 心躰悪〔心  
 体悪い〕\**tomo*「心体」*wen*「悪い」;《参  
 考》*tom, -o*「~の胴中」(N), *wen*「悪い」  
 (N)。// ☞イコニ。(支體)(126 ウ 11)

トルケシ *turkes*【名】なまず // 脈留り跡〔脈  
 が留まる跡〕;《参考》*turkes*「あざ、ほく  
 ろ」(H)。《方言》*turkes*(美, 名 H)。// (支  
 體)(125 ウ 11)

トレシボ *turespo*【名】妹 // 次の種〔次の種〕



- \*tures? 「次の?」 po? 「種?」; 《参考》  
turespo 「妹」(Ok): tures 「(兄から見た)  
妹」(N), po 「(名詞に接尾して小さい、年  
若い～という意味の名詞をつくる。決ま  
った語に現れる)」(T)。和解関連語: piye  
「～の種」(T)。// 人倫(120 ウ 11)
- トエタ toyta 【動 1】 畠 // 土打拵 [土を打っ  
て拵(こしら)える] \*toy 「土」 ta 「打っ  
て拵える」; 《参考》 toyta 「耕作する」(N):  
toy 「土」(N), ta 「～を掘る」(N)。// ☞ ト  
イ。(天地)(113 ウ 03)
- トエタシヤモ toytasisamo 【動 1+名】 百  
姓 // 土掘人 [土を掘る人] \*toy 「土」 ta  
「を掘る」 sisamo 「人」; 《参考》 toyta 「耕  
作する」(N), toy 「土」(N), ta 「～を掘る」  
(N), sisam 「和人」(N)。// ☞ トイ。人倫  
(119 オ 10)
- トエマ tuyma 【動 1】 遠い // - [和解なし];  
《参考》 tuyma 「遠い」(N)。// (天地)(109  
オ 02)
- ナイ nay 【名】 沢 // - [和解なし]; 《参考》  
nay 「沢」(N)。// (天地)(108 ウ 05)
- ナウンシシヤム naunsisam 【名】 当処の人  
// 元より居人 [元より居る人] \*naun 「元  
より居る?」 sisam 「人」; 《参考》 naun は  
不明。ne-aun であろうか。ne 「その」(N),  
aun 「内側の」(N), sisam 「和人」(N)。//  
人倫(122 ウ 02)
- ナヌ nanu 【名】 顔 // 心聞テ変る [心を聞いて  
変わる] \*nu 「聞く」; 《参考》 nan, -u  
「顔」(N)。和解関連語: nu 「～を聞く」  
(N)。// (支體)(124 ウ 03)
- ニイクル nikur 【名】 林原 // 木影 [木の影]  
\*ni 「木」 kur 「影」; 《参考》 nikur 「林」  
(八 H): ni 「木」(N), kur 「影」(N)。// (天  
地)(112 ウ 03)
- ニシ nis 【名】 雲 // 草原より出ル [草原から  
出る]; 《参考》 nis 「空、天」(N)。// (天  
地)(107 オ 06)
- ニシクリ niskur 【名】 曇る // 雲影 [雲の影]  
\*nis 「雲」 kur 「影」; 《参考》 nikur 「雲」  
(N): nis 「雲」(N), kur 「影」(N)。// (天  
地)(112 オ 07)
- ニシバ nispa 【名】 貴人 // 金物持頭 [金物を  
持つ頭(かしら)] \*nis? 「金物を持つ?」 pa  
「頭」; 《参考》 nispa 「長者、物持ち」(N)。  
和解関連語: pa 「頭」(T)。// 人倫(118 オ  
05)
- ニシヤツ nisat 【名】 朝 // 後暮て明り [後暮  
れて明ける] \*nisat 「後暮れて明ける」;  
《参考》 nisat 「夜明け」(N)。// (天地)(116  
ウ 02)
- ニシヤツシヤヲチ nisatsawot 【名】 大白星  
// しのゝ目恐れ上り [東雲(しののめ)恐れ  
て上る] \*nisat 「しののめ」 sawot 「恐れ  
て上る?」; 《参考》 nisatsawot 「明けの明  
星」(N): nisat 「夜明け」(N), sawot 「～  
から逃げる」(N)。// (天地)(117 オ 04)
- ニシヤツタ nisatta 【名/副】 明日 // 暮り明  
有 [暮れて明かり有る]; 《参考》 nisatta  
「明日」: nisat 「夜明け前の空の白み」(T),  
ta 「において」(T)。// (天地)(116 オ 04)
- ニシヨロ nisor 【名】 天 // 雲の上ニあり [雲  
の上にある] \*nis 「雲」 or, -o 「の上にあ  
る」; 《参考》 nisor 「(場所としての)空」  
(T): nis 「雲」(N), or, -o 「～のところ」  
(N)。// ☞ カントウ。(天地)(107 オ 02)
- ニシヨロアン nisor'an 【名+動 1】 日和 // 雲  
の間有 [雲の間が有る] \*nisor 「雲(の間?)」  
an 「有る」; 《参考》 nisor 「(場所としての)  
空」(T), an 「ある」(N) // ☞ ニシヨロ。(天  
地)(113 オ 10)

ニシヲカケアン nis okake an 【名・位・動  
1】晴 // 雲後有〔雲の後に有る〕\*nis「雲」  
okake「の後に」 an「ある」;《参考》nis  
「雲」(N), oka, -ke「(移動しているもの  
の後ろ)」(N), an「ある」(N) // ☞ニシ。(天  
地)(113 オ 11)

ニタイ nitay 【名】樹の茂生 // 木原〔木原〕  
\*ni「木」 tay「原」;《参考》nitay「林」  
(N): ni「木」(N), tay「林のように林立し  
たもの」(N)。 // (天地)(112 ウ 04)

ニツ子カモイ nitne kamuy 【動1・名】闇  
魔王 // 強い神〔強い神〕\*nitne「強い」  
kamuy「神」;《参考》nitne kamuy「悪  
神」(N): nitne「性悪である」(N), kamuy  
「神」(N)。 // 人倫(119 オ 02)

ニマム nimam 【名】船神 // 木とつる〔木綴  
る〕\*ni「木」 mam?「綴る?」;《参考》  
nimam「舟」。 // 人倫(119 ウ 09)

ニンケ ninke/ninki 【名】胆 // 干(渴)する事  
あり〔干す事ある〕;《参考》ninke/ninki  
「たんのう(胆嚢)」(C人)。『知里人間編』  
によると、ninke/ninkiは乾燥した胆嚢  
のことであり、伝蔵の和解はそれを言っ  
たものと考えられる。 // 「ニ」の左横に  
「チ」とある。秋葉翻刻によると、和解は  
「論する事あり」。(支體)(125 オ 04)

ヌバラウレ nuparawre? 【名】股 // 双方平ら  
足〔双方の平らな足〕\*nu?「双方の?」  
para「平らな」 ure「足」※未詳;《参考》  
parawre「足のうちの足首から先の部分」  
(N): para「広い」(T), ure「足(足首から  
先)」(T)。 // (支體)(123 ウ 11)

ヌブカ nupka 【名】野 // 空平上〔空の平ら  
な上〕\*nup?「空平?」 ka「上」;《参考》  
nup-ka〔nupka〕「原野、野原」(C地):  
nup「野原、平地」(N), ka「~に接して上」

(N)。 // (天地)(110 オ 06)

ヌフリ nupuri 【名】岳 // 稀高い〔稀に高い〕  
\*nupu「稀に?」 ri「高い」;《参考》nupuri  
「山」(N)。和解関連語: ri「高い」(N)。  
 // (天地)(107 ウ 09)

ヌブレシユルウタレ nupursurutar 【名】僧  
 // 考い当る者〔考えて当たる者〕\*nupur  
「考えて当たる」, suru「する(日本語?)」,  
utar「者」;《参考》nupur「透視力をはじ  
めとする霊力(超能力)がある」(T), utar  
「人々」(T)。 // 人倫(119 ウ 01)

ヌベ nupe 【名】涙 // 魚水〔魚・水〕\*nu「魚」  
pe「水」;《参考》nupe「涙」(N): nu「目」  
(N), pe「水」。和解関連語: nu「狩猟や漁  
や採集や交易の収穫が多いこと、豊漁」  
(T)。 // (支體)(125 ウ 04)

ヌマニ numan 【名/副】昨日 // 夜影ニ有タ  
〔夜影に有った〕\*num?「夜影?」 an「有  
った」※要検討;《参考》numan「昨日」  
(N)。和解関連語: an「ある」(N)。 // ☞ホ  
シケヌマニ。(天地)(116 オ 02)

子ドハケ netopa, -ke 【名】身 // 暖水風躰〔暖  
水風体?〕\*neto「暖水(日本語?)」 pa「風」  
ke(w)「体」;《参考》netopa, -ke「体、胴  
体」(N)。和解関連語: pa「湯気、煙」(N),  
kew「体、骨格」(T)。 // (支體)(122 ウ 09)

ノキ nok, -i 【名】陰囊 // 玉〔玉〕\*nok, -i  
「玉」;《参考》nok, -i「きんたま」(H)。  
和解関連語: nok, -i「(鳥の)たまご」(T)。  
 // (支體)(125 オ 07)

ノシケベチ noskepeci(<noskeaskepet, -i)  
 【名】中指 // 中指〔中指〕\*noske「中」  
peci「指」;《参考》noskiaskepet, -i(沙 H)  
や noskeke askepeci(宗 H)が最も近い  
形: noske「まんなか」(H), askepet, -i「指」  
(N)。《方言》『方言辞典』によると、北海

道の大部分の方言は **noski** であるが、宗谷や樺太ライチシカでは **noske** という語形が見つかる。また、北千島(Tr)にも **noske** が見られる。// (支體)(124 オ 09)

ノタカム **notakam, -u** 【名】 頤ベタ // 厚やわらか [厚くやわらかい]; 《参考》**notakam** 「ほほ」(H)。《方言》『方言辞典』において方言差は殆ど見られないものの、所属形になった場合に、**notakami** になる方言(八,沙,帯,ラ H)と **notakamu** になる方言(宗 H)がある。// 「頤」は「頬」の書き間違いであろう。(支體)(123 オ 11)

ノチウ **nociw** 【名】 星 // 空ニ付滉ふ [空についてうるおう。]; 《参考》**nociw** 「星」(N)。// (天地)(107 ウ 04)

ノツケウ **notkew** 【名】 頬 // 崎の躰 [崎である体] \***not**「岬」**kew**「体」; 《参考》**notkew, -e** 「あご(下あご全体)」(N); **not** 「あご、みさき」(C 地), **kew** 「体、骨格」(T)。// 「頬」は「顎」の書き間違いであろう。(支體)(123 オ 12)

バーリ、**pariri** 【動 1】 気 // 息立登る [息が立ちのぼる] \***pa**「息」**riri**「立ちのぼる」; 《参考》**pariri** 「～のモクモクと出る煙」(T); **pa** 「湯気、煙」(N), **ri** 「高い」(N)。**riri** は **ri** の重複形で「高くなる」という意味を表すと考えられる。// (天地)(111 ウ 06)

バクルヲベ **pakurope?** 【名】 舌 // 戸息味分る [吐息や味がわかる?] \***pa**「吐息」※要検討; 《参考》**parunpe** 「舌」(N)。和解関連語: **pa** 「湯気、煙」(N)。// (支體)(124 ウ 11)

バケ **pa, -ke** 【名】 頭 // 始体 [始めの体] \***pa**「始め」**ke(w)**「体」; 《参考》**pa, -ke**「頭」(C 人)。和解関連語: **pa, -ke** 「～の上端」

(N), **kew** 「体、骨格」(T)。《方言》『方言辞典』によると、**pake** は北海道全域に見られる語形だが、主に東部に目立つ。北海道の西部は、**sapa** という語形も使用する。// (支體)(122 ウ 07)

バシ **pas** 【名】 炭 // - [和解なし]; 《参考》**pas** 「消し炭」(N)。// (天地)(113 オ 08)

バシナ<sup>1</sup> **pasna** 【名】 灰 // 燃きほごり [焼き埃?]; 《参考》**pasna** 「ほこり」(H)。《方言》**pasna**(宗 H), **pasina**(名 H), **mana**(八 H), **pana**(沙,美,旭 H)。// ☞バシナ<sup>2</sup>。(天地)(113 オ 07)

バシナ<sup>2</sup> **pasna** 【名】 炭(ホコリ) // 炭の粉 [炭の粉]; 《参考》**pasna** 「ほこり」(H)。// ☞バナ、バシナ<sup>1</sup>。(天地)(117 ウ 02)

バツタリ **pattari** 【名/動 1】 大便 // 勿落シ [勿ね落とす] \***pattar** 「勿ね落とす」; 《参考》**pattar** 「(煎り豆が)はぜる」(Ky)。「大便をする」という意味では未見だが、隠語として用いられた可能性がある。// ☞ヲシヨロマ。(支體)(125 ウ 02)

バナ **pana** 【名】 埃(ホコリ) // こまかく飛集り [細かく飛び集まる]; 《参考》**pana** 「ちり、ほこり」(N)。// ☞「炭(ホコリ)バシナ」。(天地)(117 ウ 01)

バナケ **pana, -ke**【位】川下 // 川下もの方 [川下(しも)の方] \***panake** 「川下の方」; 《参考》**pana, -ke** 「川下」(N)。// (天地)(108 オ 08)

ハホ **hapo** 【名】 母 // - [和解なし]; 《参考》**hapo** 「母」(H)。《方言》「母」を表す語形のうち、**hapo** は北海道の中央部を除いて広く分布する(八,幌,沙,帯,美,宗 H)。// 人倫(120 ウ 01)

バラウレ **parawre**【名】 足の甲先 // 広足 [広い足] \***para** 「広い」**ure** 「足」; 《参考》

- parawre 「足のうちの足首から先の部分」  
(N) : para 「広い」(T), ure 「足(足首から先)」(T)。 // (支體)(124 オ 01)
- ハルキシヨ harkiso 【名】 療(左り) // 片方の座 [片方の座] \*harki 「片方の」 so 「座」;  
《参考》 harkiso 「左座」(N) : harki 「左の」(T), so 「座」(T)。 // 「療」は「かがりび」のこと。☞シイシヨ、イヌンベ、ロハ。(天地)(113 オ 05)
- バエカル paykar 【名】 春 // 年頭を廻る [年頭より廻る] \*pa 「年」 kar 「廻る」;  
《参考》 paykar 「春」(N)。 和 解 関 連 語 : pa 「年」(N), pa, -ke 「頭」(C 人), kar 「廻る」(Kb)。  
 // (天地)(114 ウ 08)
- ハンカプイ hankapuy, -e 【名】 臍 // 底筋糸の穴 [底筋糸?の穴] \*han 「底」 ka 「糸」  
puy 「穴」; hankapuy, -e 「へそ(臍)」(帯, 美, ラ H) : hanka 「へそ」(C 人), puy, -e 「穴」(C 人)。 和 解 関 連 語 : ka 「木の内皮の繊維で作った糸」(T)。《方言》『方言辞典』によると、北海道の西部で hanku, 東部で hanka が用いられる傾向にある。樺太ライチシカは両形用いる。 // (支體)(124 ウ 01)
- ハンケ hanke 【動 1】 近い // 声聞へる [声が聞こえる]; 《参考》 hanke 「近い」(N)。  
 // (天地)(109 オ 03)
- パンチヨ pancu 【名】 大工 // - [和 解 な し];  
《参考》 pancu 「大工」 // 人倫(119 オ 08)
- ピガタ pikata 【名】 午 // 暖へ明方 [暖かい明け方]; 《参考》 pikata 「南風」(八, 名 H)。  
 // (天地)(111 オ 03)
- ピシタ pis ta 【位・格助】 浜辺 // 砂り端方 [砂利(じゃり)の端の方] \*pis 「砂利端」  
ta 「の方」; 《参考》 pis 「浜」(N), ta 「(場所)で、(場所)に」(N)。 // (天地)(109 ウ 04)
- ヒシタル pista ru 【位+格助・名】 浜の道 // - [和 解 な し]; 《参考》 pis 「浜」(N), ta 「(場所)で、(場所)に」(N), ru 「道」(N)。  
 // (天地)(111 ウ 03)
- ヒタラ pitar 【名】 川原 // 崩流ル跡 [崩れ流れた跡]; 《参考》 pitar 「河原」(N)。 // (天地)(110 オ 02)
- フーレシヤム hure sam(<hure sisam) 【動 1・名】 魯西亜人 // 赤人 [赤い人] \*hure 「赤い」 sam(o) 「人」; 《参考》 hure sisam 「白人」(N) : hure 「赤い」(N), sisam 「和人」(N), samo 「和人」(八 H)。 // 人倫(118 ウ 09)
- フシコ husko 【動 1】 昔 // 古るひ事 [古い事]; 《参考》 husko 「昔の、古い」(N)。  
 // (天地)(114 オ 11)
- フツブ hup 【名/動 1】 腫 // はれる [腫れる] \*hup 「腫れる」; 《参考》 hup 「腫れる、腫れ物」(N)。 // (支體)(126 オ 06)
- フツフマ hupoma 【名/動 1】 腫物 // はれ立 [腫れたつ] \*hupoma 「腫れたつ」;  
《参考》 hup oma 「はれもの、おでき、はれものが一つ出る」(幌 C 人) : hup 「腫れる、腫れ物」(N), oma 「(場所)にある」(N)。  
 // (支體)(126 オ 07)
- ヘカイ hekay 【名/動 1】 老るもの // - [和 解 な し]; 《参考》 hekay 「年を取る、年とった」(H)。《方言》 hekay(幌 H), hekay [雅語] (宗 H), hekaye(沙, ラ H), ekaye(名 H)。 // 人倫(121 ウ 09)
- ベケレカタ pekerkata 【動 1+位+格助】 已 // 明方より [明るい方から] \*peker 「明るい」 ka ta 「方から」 ※要検討; 《参考》 pekerkata は未見。 peker 「明るい」(N), ka 「～に接して上」(N), ta 「(場所)で、(場所)に」(N)。(天地)(111 オ 02)

- ペケンモシリ pekenmosir, -i/ peker\_mosir, -i 【名/動 1・名】地 // 日国〔太陽の国〕 \*peker 「日」 mosir, -i 「国」; 《参考》 peker 「明るい」(N), mosir, -i 「国」(N)。 // シリカタ。(天地)(107 オ 04)
- ベシカンベ peskanpe 【名】丑 // 山ひらニ欠る〔山々に欠ける〕; 《参考》 peskanpe 「東風」(ラ H)。 // (天地)(110 ウ 08)
- ベシヨーニ pesoni? 【名】みぞれ // 氷水散て解る〔氷水が散らばって解ける〕 \*pe 「氷水」 soni? (< sos(ke)?) 「散らばって解ける」 ※要検討; 《参考》 pesoni という語形は未見。 pesos 「みぞれ」(歳 N; 沙 Ky): pe 「水」(N), 「薄い片」(T)。 和解関連語: soske 「剥げる、むける」(N)。 // (天地)(108 ウ 09)
- ヘシルトノ hesirtono? 【動 1+名】医者 // 疑さかし殿〔疑い探す殿〕 \*hesiru? 「疑い探す?」 tonon 「殿」 ※要検討; 《参考》 he 「頭」(N), siru 「～をこする」(N), tonon 「殿様、旦那(<日本語)」(T)。 // 人倫(119 ウ 03)
- ベツ pet 【名】川 // 水集流〔水が集まり流れる〕 \*pe 「水」(o)t 「集まり流れる?」; 《参考》 pet 「川」(N)。 和解関連語: pe 「水」(N), ot 「～がたまる、たまっている」(T)。 // (天地)(107 ウ 10)
- ベツシヤム petsam 【名+位】川端 // 川側〔川側〕 \*pet 「川」 sam 「側」; 《参考》 petsam 「川辺」(Ky): pet 「川」(N), sam 「～のそば」(N)。 // (天地)(109 オ 05)
- ベツシヨー petso 【名】滝 // 水床カ〔水の床〕 \*pe 「水」 so 「床」; 《参考》 petso 「川の所(川の水の上ではなく、川端、川原の所)」(T): pet 「川」(N), so 「床」(N)。 また、so 「滝」(N)。 // (天地)(112 オ 09)
- ベツタヌ petanu 【名】川の俣 // 川わかれ〔川のわかれめ〕 \*pet 「川」 anu 「わかれめ」 ※要検討; 《参考》 Petanu [petanu] 「A fork in a river.(川股)」(B): pet 「川」(N)。 // (天地)(109 ウ 07)
- ベツチャ petca 【名】川岸 // 川ふつ〔川淵〕 \*pet 「川」 ca 「淵」; 《参考》 petca 「岸」(H): pet 「川」(N), cha [ca] 「ふち、岸」(C 地)。 《方言》 petca 「岸」(美, 帯 H), naycaa(ラ H), petpa(幌 H)。「口」の語根である pa と ca は東西型の方言差をもち、北海道東部、樺太、北千島は ca を用いる。 // (天地)(109 オ 04)
- ベツノカ petnoka 【名】天河 // 川影〔川の影〕; 《参考》 petnoka 「天の川」(T): pet 「川」(N), noka 「形」(N)。 // (天地)(111 ウ 05)
- ベツブタ petputa? 【?】川向ふ // ー〔和解なし〕 ※未詳。 // (天地)(109 ウ 06)
- ベツブツ petput, -u 【名】川尻 // 川口〔川口〕 \*pet 「川」 put, -u 「口」; 《参考》 pet 「川」(N), put, -u 「(川など)の口」(N)。 // (天地)(108 オ 10)
- ヘツヲシヨロ pet'osor, -o 【名】川尻 // 川尻〔川尻〕 \*pet 「川」 osor 「尻」; 《参考》 pet 「川」(N), osor, -o 「尻」。 // (天地)(108 オ 09)
- ベナタ pena ta 【位・格助】川上 // 水上の方〔水上の方〕 \*pena 「水上」 ta 「の方」; 《参考》 pena, -ke 「川上」(N), ta 「(場所)で、(場所)に」(N)。 // (天地)(108 オ 07)
- ベボブ pepop 【名+動 1】水の湧 // 水涌〔水がわく〕 \*pe 「水」 pop 「わく」; 《参考》 pe 「水」(N), pop 「煮立つ」(N)。 // (天地)(112 オ 01)
- ベヲホイ peohoy 【名+動 1】水深い // ー〔和

- 解なし];《参考》pe「水」(N), oohoy「深い」(N), ohoy「深淵」(シラウラ C 地)。 // (天地)(112 オ 03)
- ヘンバラタ **hempara ta**【疑副+格助】先年 // 何ツの頃 [いつの頃] \*hemparata「何時の頃」※要検討;《参考》hempara「いつ」(N), ta「(場所)に」(N)。「先年」という意味では未見。 // (天地)(114 ウ 07)
- ホイナ **poyna**【名】石 // 重く丸い [重く丸い];《方言》poyna「石」(千 Tr),「石」[雅語] (美 C 地)。 // シユマ。(天地)(109 ウ 02)
- ポー **po**【名】子供 // 子供 [子供] \*po「子供」;《参考》po「子供、息子」(N)。 // ホンチヨ。人倫(120 オ 05)
- ボキ **pok, -i**【名】陰門 // 子供仕 [子供仕える?] \*po「子供」ki「仕える」;《参考》**pok, -i**「陰部(男女ともに指す)」(N)。和解関連語: po「子供」(N), ki「~をする」(N)。 // 秋葉翻刻によると和解は「子供ノ口」。チツツ。(支體)(125 オ 08)
- ボキナシリ **poknasir**【名】極楽 // 別世の地 [別世の地] \*pokna「別世の」sir「地」;《参考》poknasir「あの世、地獄」(N): pokna「下方の」(N), sir「あたり、地面」(N)。 // テイ子ホキナシリ。(天地)(117 ウ 04)
- ボキナチャブシ **poknacapus, -i**【名】唇 // 下口縁 [下唇] \*pokna「下」capus「唇」;《参考》poknacapus, -i「下唇」(帯 H; 旭, 様似 C 人): pokna「下方の」(N), capus「唇」(H)。《方言》capus を使用する北海道東部方言のなかでも「下唇」を指すときの言い方は一定しない。 // チャブシ。(支體)(123 オ 10)
- ホク **hoku**【名】夫 // - [和解なし];《参考》**hoku**「夫」(N)。 // 本項目は、「夫 ウホク」に対して「ホクとも云う」と書き加えられた箇所。ウホク。人倫(121 オ 05)
- ホクシヤク **hokusak**【名】女やもめ // 夫なし [夫なし] \*hoku「夫」sak「なし」;《参考》hokusak「やもめ、独身」(H): hoku「夫」(N), sak「~を欠く」(N)。 // 人倫(121 オ 14)
- ボケシ **pokes, -i**【名】あざ // 汁ノ流跡 [汁の流れた跡] p(e)「汁」o?「流れた」kes「跡」;《参考》pokes, -i「あざ」(屈斜路 C 人): po「子」(C 人), kes「斑紋」(C 人)。和解関連語: pe「汁」(N), o「~を(場所)に入れる」(N)。 // (支體)(125 ウ 10)
- ホシケシヤキ子 **hoskidakne**【副】去々年 // 先明前 [先明ける前] \*hoski「前?」sakne「先明ける」;《参考》hoskidakne「おととしの夏」: hoski「先に」(N), sak「夏」(N), ne「に」(N)。 // シヤキ子、ホシケシヤキ子エトコ。(天地)(114 ウ 05)
- ホシケシヤキ子エトコ **hoskidakne etoko**【副+位】三年前 // 先明た先の前 [先明けた先の前] \*hoski「先」sakne「明けた先」etoko「の前」;《参考》hoskidakne「おととしの夏」(N), etoko「(移動しているもの)の前」(N)。 // シヤキ子、ホシケシヤキ子。(天地)(114 ウ 06)
- ホシケヌマニ **hoskinuman**【名/副】一昨日 // 先夜影ニ有た [先夜影に有った] \*hoski「先」num「夜影?」an「有った」※要検討;《参考》hoskinuman「おととし」(N): hoski「先に」(N), numan「昨日」(N)。和解関連語: an「ある」(N)。 // ヌマニ。(天地)(116 オ 03)
- ホニ **hon, -i**【名】腹 // 骨なき [骨がない];《参考》hon, -i「腹」(N)。 // (支體)(123

オ 01)

ポブケ popke 【動 1】 暑 // 煎立心 [煎(に)立つ心] \*pop 「煮立つ」 ke(wtum) 「心?」; 《参考》 popke 「暖かい」 (N), 「煮たつ、沸騰する」 (C 地): pop 「煮たつ」 (N), -ke 「(動詞語根につき、自動詞をつくる)」(N)。 和解関連語: kewtum 「心」 (N)。 // (天地)(112 ウ 07)

ホマンノボ homannopo 【副】 遥 // - [和解なし] 《参考》 Oman-no-po [omannopo] 「Distant. Far. Afar. (遠くに、遙かかなたに)」 (B), homanno 「ぼんやり」 (H)。 《方言》 homarno (八 H), homanno (沙 H), omarno, omano (名 H), homaraano (ラ H)。 // (天地)(113 ウ 08)

ホンコロメノコ honkor menoko 【名+動 2・名】 孕み女 // 腹持女 [腹を持つ女] \*hon 「腹」 kor 「を持つ」 menoko 「女」; 《参考》 honkormenoko 「妊婦」 (Ky): honkor 「妊娠する」 (N), hon 「腹」 (N), kor 「～を持つ」 (N), menoko 「女」 (N)。 // 人倫 (122 オ 08)

ホンチヨ ponco 【名】 子供 // 小陰茎、口門のふち言也 [小陰茎、肛門のふちを言う]; 《参考》 poncho [ponco] 「あかんぼ、あかご」 (様似 C 人)。 // 「陰茎」と「口門」は並記されている。 ☞ ポー。 人倫 (120 オ 04)

ボ子トンコニ ponetomkoni 【名/動 1】 骨痛 // 骨ニ当てやめる [骨に当たって痛む] \*pone 「骨(日本語)」 koni 「痛む」; 《参考》 pone 「骨(<日本語)」 (N), tom 「～の胴中」 (N), koni 「～が痛む」 (N)。 // (支體)(126 オ 05)

マウツ maci 【名】 女房 // 身籠合 [身籠り合う]; 《参考》 mat, -i 「妻」 (N)。「マツ」と

いう表記に対して「マウツ」は所属形の maci を表しているとも考えられる。 // ☞ マツ。 人倫 (121 オ 06)

マカンベツ makan pet 【連体・名】 古川 // 枝川 [枝の川] \*makan 「枝の?」 pet 「川」; 《参考》 makan 「奥へ行く」 (C 地), pet 「川」 (N)。 // ☞ マクンベツ。 (天地)(109 ウ 09)

マカナルハ makanrur 【名】 陰海 // 影の水 [影(の方)の水] \*makan 「影の?」 rur 「水」; 《参考》 Makan-ruru [makanrur] 「The northern sea.(北の海)」 (B): makan 「奥へ行く」 (C 地), rur 「海の潮」 (N)。 // (天地)(109 オ 07)

マクタル makta ru 【位+格助・名】 岡の道 // - [和解なし]; 《参考》 mak 「(海側に対して)山側」(T), ta 「(場所)で、(場所)に」 (N), ru 「道」 (N)。 // (天地)(111 ウ 02)

マクンベツ makun pet 【連体・名】 古川 // 古川 [古い川] \*makun 「古い?」 pet 「川」; 《参考》 makun 「奥の、後方の」 (N), pet 「川」 (N)。 // 「マ」が「コ」のように表記されている。 ☞ マカンベツ。 (天地)(109 ウ 08)

マタ mata 【名】 冬 // 圀頃 [圀う頃]; 《参考》 mata 「冬」 (N)。 // (天地)(114 ウ 11)

マタノシケ matanoske 【名+位】 冬至 // - [和解なし]; 《参考》 Mata-noshke [matanoske] 「Mid-winter.(冬至)」 (B): mata 「冬」 (N), noske 「まんなか」 (C 地)。 // ☞ シヤクノシケ。 (天地)(115 オ 05)

マツ mat, -i 【名】 女房 // 同 [(マウツに)同じ(身籠り合う)]; 《参考》 mat, -i 「妻」 (N)。「マウツ」という表記に対して「マツ」は概念形の mat を表しているとも考えられる。 // ☞ マウツ。 人倫 (121 オ 07)

マツアントノ maciyan tono(<maciya an tono)【名・名】町奉行 // 町ニ有殿 [町に  
いる殿] \*maciya「町」an「いる」tono  
「殿」;《参考》maciya「(和人の)町(<日本  
語)」(N), an「いる」(N), tono「殿様、旦那  
(和人の男子を呼ぶ敬称)、役人(<日本  
語)」(T)。 // 人倫(118 オ 01)

マツコエワク matkoiwak【名/動 1】飛星 //  
妻方へしのぶ行 [妻の方へしのび行く] \*  
mat「妻」koiwak「方へしのび行く」《参  
考》matkoiwak「(妻の所へ、女の所へ)通  
う、夜這い星、流れ星」(Ky)。mat「女、  
妻」(N), koiwak「～へ通う」(Ky)。 // (天  
地)(110 ウ 02)

マツシヤク matsak【名】男やもめ // 女房な  
し [女房なし] \*mat「女房」sak「なし」;  
《参考》matsak「妻を持たない」(T), 「や  
もめ、独身」(H) : mat「妻」(N), sak「～  
を欠く」(N)。 // 人倫(121 オ 13)

マツナウ matnaw【名】子 // 妻居方 [妻が  
いる方] \*mat「妻」naw?「居る方?」;  
《参考》matnaw「北風」(沙 T)。和解関  
連語 : mat「妻」(N)。 // (天地)(110 ウ 07)

マツ子セカチ matnesekaci(<matne  
hekaci)【名】女ノ子 // 婦成子 [婦(おんな)  
になる子] \*mat「婦(おんな)」ne「にな  
る」sekaci(<hekaci)「子」;《参考》  
matnehekaci「むすめ(娘)」(C 人) : matne  
「女の」(C 人), hekaci「童」(C 人)。 // ☞  
セカチ、メノコボ、ヲベリ。人倫(121 オ  
09)

マヤイケ mayayke【名/動 1】ひせん // かゆ  
ふ [かゆい] \*mayayke「かゆい」;《参  
考》mayayke「かゆい、ひぜん、かいせ  
ん(疥癬)」(C 人)。「ひぜん」は皮膚病で、  
強いかゆみを伴うことに由来する。 // (支

體)(126 オ 02)

マラブトヌカ marapto noka【名・名】織女  
// 御馳走の形図 [御馳走の形図] \*  
marapto「御馳走」noka「形図」;《参考》  
maratto noka nociw「熊の頭星、琴座 αβζ」  
(末岡 1979) : marapto「宴、熊の頭」(Ky),  
noka「形」(N)。 // (天地)(111 ウ 09)

ミチ mici【名】父 // - [和解なし];《参考》  
mici「父」(H)。《方言》「父」を表す語  
形は方言差が大きいが mici という語形  
は太平洋側に広がる(幌, 沙, 帯, 美 H)。 //  
「ミチ」の左横にある「アツチャ」は字消  
しされている。人倫(120 オ 12)

ミチボ micipo? /mitpo【名】孫 // 父よりの  
種 [父よりの種] \*mici「父」po?「種?」  
※要検討;《参考》mitpo「孫」(H)。カタ  
カナによるアイヌ語の推定形は micipo  
だが未見。和解関連語 : piye「～の種」(T)。  
《方言》『方言辞典』によると、北海道の  
大多数の方言で mitpo という形式が用  
いられる。沙流や旭川などでは t が逆行  
同化した mippo という形式が見られる。  
// 人倫(120 ウ 12)

ムカン子リ mukannere【動 1?】うねり //  
水高くしてわれぬ [水が高くなってわか  
れない] ※要検討;《参考》Mukannere  
[mukannere]「Undulating.(波状の)」  
(B)。 // ☞リハ。(天地)(108 ウ 04)

ムシリコロヘ mosirkorpe【名】諸侯 // 国持  
衆 [国を持つ衆] \*mosir「国」kor「持  
つ」pe「衆」;《参考》mosir「国」(N), kor  
「～を持つ、～を所有する」(N), pe「も  
の」(N)。 // 人倫(118 オ 06)

ムニホラクチウブ munihorakcup【名】七  
月 // 草枯ころぶ [草が枯れて倒れる] \*  
muni「草」horak「枯れて倒れる」;《参



考》moniorak「木の上葉のおつること、  
現今の八月」(帯 Y): mun, -i「草」(N),  
horak「崩れ落ちる、倒れる」(N), cup「(時  
間としての)月」(N)。// (天地)(115 ウ 02)  
ムンへ munpe【名】露 // 草沙水〔草の表面  
の水滴〕 \*mun「草」 pe「水」;《参考》  
munpe「草の汁」(T), 「露」(Kb): mun  
「草」(N), pe「水」(N)。// (天地)(107 ウ  
01)

メウン meun【動 1】寒い // 水気身ニまとふ  
〔水気を身にまとう〕 \*me「水気?」 un  
「身にまとう」;《参考》meun「寒い」(H):  
me「寒さ」(N), un「～につく」(N)。《方  
言》meun(八, 帯 H), merayke(幌, 沙, 旭, 名,  
宗 H), meerayki(ラ H), menoye(美 H) //  
「ン」は右横に「ン」と書き直し有り。(天  
地)(112 ウ 08)

メト meto?【名】沓 // 溜溜の日〔溜まる溜  
(ふち)の日〕 \*me(m)?「溜溜?」 to「日」  
※要検討;《参考》「なぎ(風)」は、neto(八  
H), noto(幌, 沙, 名 H) などが報告される  
が、meto は未見。和解関連語: mem「泉  
池、泉沼」(C 地), to「日」(N)。// (天地)(110  
ウ 06)

メナシ menas【名】卯 // 寒イ方ノ風〔寒い  
方の風〕;《参考》menas, -i「東風、東」  
(C 地)。// (天地)(110 ウ 10)

メナシグル menaskur(<menasunkur)【名】  
東の蝦夷 // 寒方の者〔寒い方の者〕 \*  
menas「寒方」 kur「者」;《参考》menas  
「東南の方向の地域」(T), un「～に住む」  
(N), kur「人」(N)。// 人倫(119 オ 06)

メノコ menoko【名】女 // —〔和解なし〕;  
《参考》menoko「女(<日本語)」(T)。//  
人倫(121 オ 03)

メノコボ menokopo【名】女ノ子 // 女の子

〔女の子〕 \*menoko「女」 po「子」;《参  
考》menokopo「若い女、娘」(N): menoko  
「女」(T), po「(名詞に接尾して小さい、  
年若い～という意味の名詞をつくる。決  
まった語に現れる)」(T) // ☞マツ子セカチ、  
ヲベリ。// 人倫(121 オ 10)

メム mem【名】古川の溜水 // たつぷり水深  
〔たつぷりとした水の深さ〕;《参考》  
mem「泉池、泉沼、清水が湧いて出来て  
いる池または沼で魚が多く入る所、湧き  
つぽ」(C 地)。// (天地)(109 ウ 10)

モイ moy【名】小湾 // 輪半〔半輪〕 \*moy  
「半輪」;《参考》moy「川岸がえぐれ、水  
が渦状に流れ込んでよどんでいるところ」  
(N), 「入江」(C 地)。// (天地)(113 ウ 07)

モウタチウブ mowtacup?【名】五月 // 青浜  
梨〔青いハマナス〕 \*mowta?  
(<momawta)「青いハマナス」※要検討;  
《参考》momautachup〔momawtacup〕  
「六月」(帯 Y): mo「小さい」(Ky), mawta  
「ハマナス」(N), cup「(時間としての)月」  
(N)。// (天地)(115 オ 11)

モクエタチウブ mokuytacup【名】三月 //  
草薺ぬく〔ヨモギ抜く〕 \*mokuy「ヨモ  
ギ?」 ta「抜く」;《参考》mokiwtacup「3  
月」(Ky), mokiutachup〔mokiwtacup〕  
「四月」(帯 Y): mo「小さい」(N), kiw「ヒ  
メイズイ」(C 植), ta「～を掘る」(N), cup  
「(時間としての)月」(N)。// (天地)(115 オ  
09)

モシリカモイ mosir kamuy【名・名】国主  
// 国の神〔国の神〕 \*mosir「国」 kamuy  
「神」;《参考》moshir kamui〔mosir  
kamuy〕「松前領主」(Kb): mosir「国」  
(N), kamuy「神」(N)。// 人倫(117 ウ 11)

ヤイノクリ yaynukur, -i/yaynokur, -i【名】

影法師 // 自分影[自分の影] \*yay「自分」  
no「の(日本語)?」 kur, -i「影」※要検討;  
《参考》yaynukur「体具合の悪い人」(T)  
というのがあるが不明。造語である可能性も高い:yay「自分の」(N), kur, -i「影」  
(N)。 // 人倫(120 オ 09)

ヤウンシシヤム yaunsisam【名】日本の人  
// 下り居人 [下って(そこに)居る人] \*  
yaun?「下っている?」 sisam「人」;《参考》  
yaun「陸の」(N), sisam「和人」(N)。類似する語に、yaunkur「北海道人」(N)がある。 // 人倫(122 ウ 01)

ヤタ ya ta【位・格助】岡 // 岡の方 [岡の方]  
\*ya「岡」 ta「の方」;《参考》ya「(海から見た)陸、浜辺、岸」(N), ta「(場所)で、(場所)に」(N) // (天地)(109 ウ 11)

ヤベカバイ ya peka paye【位・格助・動 1】  
海岸通 // 岡水岸行 [岡の水岸へ行く] \*ya  
「岡」 pe「水」 ka?「岸?」 paye「行く」;  
《参考》ya「(海から見た)陸、岸」(N), peka  
「(場所)を」(N), paye「行く(複数)」(N)。  
和解関連語: pe「水」(N)。 (天地)(110 オ 01)

ヤム yam【動 1】冷 // - [和解なし]; 《参考》  
Yam [yam]「Cool.(寒い)」(B), yam  
「冷たい、ひややかな」(Y)。《方言》『知里地小辞典』によると、yam は北海道北部と樺太で、北海道南部は nam と記載される。yam は北千島(Tr) や十勝(S) にも見られる。 // (天地)(114 オ 07)

ヤハンシヤモ yayan samo【連体・名】平人  
// 唯の人 [唯の人] \*yayan「唯の」 samo  
「人」;《参考》yayan「普通の」(N), samo  
「和人」(Ky; 八 H)。 // 人倫(118 オ 09)

ヤワシノグル yawasnokur/ yawasnukur  
(<wayasnukur?)【名】賢者 // 自さとり懐

う者 [自ら悟り懐(おも)う者] \*  
yawasno(<wayasnu?)「自ら悟り懐う?」  
kur「者」;《参考》yawasno/yawasnu は  
未見。wayashnu [wayasnu]「明敏なる」  
(Kb), wayasnu「りこうな」(幌 H)、  
wayasno「りこうな」(八 H): wayash  
[wayas]「賢明なる、知慧のある」(Kb),  
no「(程度がはなはだしいことを表す)」(T)。  
// 『藻汐草』の写本・類本では一貫して  
「ワヤ」ではなく「ヤワ」と書かれている。  
人倫(119 ウ 10)

ヤエキマエバ yaykimaypa【名/動 1】不孝  
者 // 自から悪つもの [自ら悪がつもの] \*  
yay「自ら」 kimaypa「悪がつもの?」;《参  
考》yaykimaypa という語そのものは未  
確認。ikimaypa「(親などの)言うことを聞  
かない」(Ok) というのがあるので、yay-  
kimaypa「自分・言うことを聞かない」と  
いう語構成だと考えられる。 // 人倫(122  
オ 05)

ヤエコエコモ yaykoekomo【名/動 1】兄弟  
夫婦ニ成ル者 // 曲り逢 [曲がり逢う] \*  
kom(ke)「曲がる」;《参考》Yaikohekomo  
[yaykohekomo]「Brother and sister  
who have become husband and wife.(夫  
や妻になった兄弟姉妹)」: yay「自分」(T),  
ko「に」(T), he「頭」(T), komo「を折り  
曲げる」(T)。 // 人倫(122 オ 04)

ヤエシユル yaysuru(<aysir/ aysiru)【名】  
幽霊ばけ物 // 自分偽妙 [自分を偽る奇妙  
なもの] \*yay「自分」 suru(<siru?)「奇  
妙なもの?」;《参考》aysir, -i「ゆうれい、  
まよいぼとけ」(美 C 人), 「霊魂」(屈斜  
路 C 人)。Aishiru [aysiru]「A ghost.(幽  
霊)」(B)。和解関連語: yay「自分を」(N)。  
// ☞ エシン子レフ。人倫(119 ウ 08)

- ヤエランベテツク *yayerampetek*【名/動 1】  
幼 // 自ら訳らぬ [自らがわからない] \*  
*yay*「自ら」*erampetek*「わからない」;《参  
考》*yayerampewtek*「何もわからない」  
(T), *yayrampewtek*「ものがわからない」  
(Ok), *yairampeutek* [*yayrampewtek*]  
「知りがたし」(Kb) : *yay*「自分を」(N),  
*erampetek*「～をわからない」(Ok)。 // 人  
倫(120 オ 02)
- ヤエロウ *yayru?*(*<wayru?*)【名?】狂気 // 自  
心俣 [自らの心の俣に] \**yay*「自ら」*ru?*  
「心の俣に?」※要検討;《参考》*wayru*「間  
違い(をす)、あやまち、うっかりした罪」  
(Ky)。和解関連語 : *yay*「自分を」(N)。 //  
(支體)(126 ウ 09)
- ユービ *yup, -i*【名】兄 // 上の種 [上の種]  
\**yu?*「上?」*pi(ye)*「種」;《参考》*yup, -  
i*「兄」(N)。和解関連語 : *piye*「～の種」  
(T) // ☞エボ。人倫(120 ウ 04)
- ユワンリコブ *iwanrikop*【名】(星の図①)如  
此星 // 六星 [六つの星] \**iwan*「六つの」  
*rikop*「星」;《参考》*iwanrikop/ iwannociw*  
「プレアデス星団」(末岡 1979)。*iwan*「六  
つの」(N), *rikop*「星」(美 H)。《方言》大  
多数の方言で「星」は *nociw* だが、美幌  
では *rikop* と言う。 // (天地)(117 オ 02)
- ライグル *raykur*【名】死人 // 土底へまがる  
者 [土の底にまがる者] \**ray(<rew(ke)?)*  
「まがる」*kur*「者」;《参考》*raykur*「死  
人」(Ky) : *ray*「死ぬ」(N), *kur*「人」(N)。  
和解関連語 : *rewke*「曲がる」(H)。 // 人  
倫(119 ウ 11)
- ラッカ *rakka*【名】瀬 // 水清く打る [水清  
くうつ];《参考》*Rakka* [*rakka*]「A shoal.  
A dry space in a river. A sand bank. A  
shallow.(浅瀬)」(B)。 // (天地)(110 オ 03)
- ラマト *ramatu?*【名】寅 // 何も多付 [いず  
れも多く付く]※未詳;《参考》*ramatu* は、  
「～の魂」(T) と報告があるのみ。 // (天  
地)(110 ウ 09)
- ラル *rar, -u*【名】眉毛 // 短毛 [短毛];《参  
考》*rar, -u*「まゆ」(H)。《方言》『方言辞  
典』によると *rar* という語形は北海道、  
樺太、北千島(Tr) に広く見られる。 // (支  
體)(123 オ 06)
- ラヲクマ *rawokuma*【名】沈ミ磯 // 底あり  
棚 [底にある棚] \**raw*「底」*o*「にある」  
*kuma*「棚?」;《参考》*raw*「沈む底の方」  
(T), *o*「～にある」(N), *kuma*「掛け竿」  
(N)。 // 「磯」の右横に「磯」と書き直し  
あり。(天地)(113 オ 09)
- ラヲチ *raoci/rawoci*【名】虹 // 腹広明り [腹  
の広い明かり];《参考》*raoci/rawoci*「に  
じ(虹)」(H)。《方言》*rayuci*(八 H),  
*rayoci*(幌, 沙, 帯, 名, ラ H), *rawoci*(美  
H), *raoci*(宗 H), *rayunci*(千 Tr)。 // (天  
地)(111 ウ 07)
- ランブウ *rampu(<rampuy)*【名】耳 // 廉穴  
通 [廉穴?を通る] \**ran*「簾?」*pu(y)*「穴」  
※未詳;《参考》*rampuy*「考える穴」(Ky)。  
和解関連語 : *puy*「(自然に開いている)穴」  
(N)。 // ☞キシヤラ。(支體)(123 ウ 05)
- ライ *ri*【動 1】高 // — [和解なし];《参考》  
*ri*「高い」(N)。 // (天地)(111 オ 10)
- リカニシヤツ *rikanisat*【名】夜明方 // 高し  
の目 [高い東雲(しのめ)] \**rika*「高  
い?」*nisat*「しのめ」※要検討;《参考》  
和解関連語 : *ri*「高い」(N), *nisat*「夜明  
け」(N)。 // 本項目は秋葉翻刻に記載漏れ。  
(天地)(116 ウ 11)
- リツ *rit, -i*【名】筋 // 底筋 [低い筋];《参考》  
*rit, -i*「筋、すじ」(T)。 // (支體)(125 ウ 08)

リ、rir【名】うねり // 次第に高成〔次第に高くなる〕\*rir(i)「次第に高くなる」;《参考》rir「波」(N)。和解関連語:ri「高い」(N)。// ☞ムカン子リ、バーリ、。(天地)(108ウ03)

ルアンベ ruanpe【名】雨 // 太く降水〔太く降る水〕\*ru(we)「太く」an「降る」pe「水」;《参考》和解関連語:ruwe「たい」(N),an「いる、ある」(N),pe「水」(N)。《方言》ruyanpe(帯,旭,名,宗H),ruanpe(美H)。// ☞アプト。(天地)(107オ08)

ルイアツケンベ ruyekkempe (<ruyeaskepet)【名】大指 // たひ始なめる〔食べ始めに舐める〕\*kem「舐める」;《参考》ruyekkempe は未見。ruyeaskepet,-i(帯H)が最も近い形:ruye「たい」(H),kem「～をなめる」(N),askepet「指」(N),pe「もの」(N)。《方言》『方言辞典』によると、北海道の多くの方言および樺太ライチシカで「たい」はruweであるが、幌別と帯広ではruye,宗谷ではrueと報告されている。// (支體)(124オ07)

ルウ ru【名】髪 // 毛長〔毛が長い〕;《参考》ru「頭髪」(C人)。《方言》『知里人間編』によると、この語は北千島で常用され、樺太や北海道では合成語中にしかあらわれないという。// (支體)(123オ03)

ルー ru【名】道路 // 足跡〔足跡〕\*ru「足跡」;《参考》ru,-we「跡、道」(N)。// (天地)(108オ06)

ルチシ rucis【名】峠 // 高き脊〔高い背〕\*r(i)「高い」;《参考》rucis「峠」(Ky)。和解関連語:ri「高い」(N)。// (天地)(111ウ01)

ルヲコビ ruokopi【名】追訣 // 道まか〔道股〕\*ru「道」okopi「股」;《参考》ru「道」(N),Okop〔okop〕「A parting place. A division. A branch.(分岐点)」(B)。// (天地)(113ウ09)

レイラ rera【名】風 // 上より下ル〔上より下る〕\*re(<ri(kin))「上」ra(n)「下る」;《参考》rera「風」(N)。和解関連語:rikin「上る」(N),ran「下りる」(N)。// (天地)(110オ09)

レキ rek,-i【名】髭 // 数ふに三年用る〔数えるのに三年用いる〕\*re「三(年)」ki「用いる?」;《参考》rek,-i「ひげ」(H)。和解関連語:re「三つの」(N),ki「～をする」(N)。《方言》『方言辞典』によると、基本的に方言差は見られないが、名寄と宗谷では所属形「～のひげ」の形がreke(he)となる。// (支體)(123オ02)

レクトコカモイ riktoko kamuy?【?・名】日輪 // 高二居て日々照神〔高いところにいて日々照らす神〕\*rik「高いところ」toko「日々照らす?」kamuy「神」※未詳;《参考》加賀家文書のなかで「日輪」や「日」〔太陽〕のアイヌ語訳として出てくる語形。異綴りとして、「リクトコカモイ」や「リクトコカモエ」など。// (天地)(107ウ02)

レプタ rep ta【位・格助】沖 // 出る所〔出る所〕;《参考》rep「沖」(N),ta「(場所)に」(N)。// (天地)(108オ01)

レフンカモイ repun kamuy【連体・名】龍神 // 沖神〔沖の神〕\*repun「沖」kamuy「神」;《参考》repunkamuy「シャチ」(T):rep「沖」(T),un「にいる」(T),kamuy「神」(T)。// 人倫(119オ01)

レフングル repunkur【名】鞅鞅 // 沖国の者

〔沖の国の者〕 \*repun 「沖国の」 kur  
「者」;《参考》 repunkur 「海のかなたに  
住んでいる人々」 (N), 「外国人」 (Ky):  
rep 「沖」 (N), un 「～に属する」 (N), kur  
「人」 (N)。 // 人倫(119 オ 04)

レラアバマカ reraapamaka? 【名?】 暈 // 風  
ノ戸開 [風の戸が開く] \*rera 「風」 apa  
「戸」 maka 「開く」 ※未詳。《参考》 和解  
関連語: rera 「風」 (N), apa 「戸」 (N), maka

「(袋の口など)を開ける」 (N)。 // (天  
地)(110 オ 11)

ロ、ror 【位】 療(正座) // 上へ [上へ] \*ror  
「上へ」;《参考》 ror 「上座」 (N)。 // 「療」  
は「かがりび」のこと。☞シイシヨ、ハル  
キシヨ、イヌンベ。(天地)(113 オ 04)

ワタラ watara 【名】 岩 // - [和解なし];《参  
考》 watara 「海中の岩」 (美, 斜里 C 地)。  
// (天地)(109 オ 01)

## 参考文献

- 秋葉実（編）（1989）『北方史資料集成』2. 北海道出版企画センター.
- 末岡外美夫（1979）『アイヌの星』旭川市図書館.
- 田中聖子・佐々木利和（1985）「近世アイヌ語資料について：とくに『もしほ草』をめぐって」『松前藩と松前』24. pp. 17-32. 松前町史編集室.
- 中川裕（1996）「言語地理学によるアイヌ語の史的 연구」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』2. pp. 1-17. 北海道立アイヌ民族文化研究センター.
- 深澤美香（2014）「加賀家文書における表記の特徴と傾向：ローマ字表記への試み」中川裕（編）『人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書 274 集 アイヌ語の文献学的研究（1）』pp. 49-72. 千葉大学大学院人文社会科学研究科.
- （2015）「金沢家文書のアイヌ語語彙集」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』21. pp. 45-112. 北海道立アイヌ民族文化研究センター.
- 別海町郷土資料館（2005）『加賀家文書 現代語訳版』5. 別海町郷土資料館.
- （2012）『別海町郷土資料館所蔵資料目録第1集 加賀家文書等資料目録I』別海町郷土資料館.
- Fukazawa, Mika (2012) The distribution and Interpretation of words for parents – 'mother' and 'father' in Ainu dialects. *Papers from the first international conference on Asian geolinguistics*. 89-98. Tokyo: Aoyama Gakuin University. (<http://agsj.jimdo.com/picag-1-2/>)
- （2014）The mystery of the phonological distribution /ca/ and /pa/ in the Eastern-Western dialects of Ainu. *Papers from the Second International Conference on Asian Geolinguistics*, 1-13. (<http://agsj.jimdo.com/picag-1-2/>)
- （2015）Geographical distribution of 'daytime' in Ainu. *Studies in Asian Geolinguistics*, 1: 44-54. Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies.

## 辞典・語彙集等

- 奥田統己（1999）『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集（CD-ROMつき）』札幌学院大学.
- 萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典』増補版. 三省堂.
- 久保寺逸彦（編）（1992）『アイヌ語・日本語辞典稿』北海道文化財保護協会.
- 澤井春美（2006）『アイヌ語十勝方言の基礎語彙集：本別町・沢井トメノのアイヌ語』北海道立アイヌ民族文化研究センター.
- 田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館.
- 知里真志保（1956）『地名アイヌ語小辞典』北海道出版企画センター.
- （1975）『知里真志保著作集別巻Ⅱ：分類アイヌ語辞典人間編』平凡社.（初出：（1954）『分類アイヌ語辞典人間編』日本常民文化研究所.）
- （1976）『知里真志保著作集別巻Ⅰ：分類アイヌ語辞典植物編・動物編』平凡社.（初

出：(1953)『分類アイヌ語辞典植物編』日本常民文化研究所，(1962)『分類アイヌ語辞典動物編』日本常民文化研究所.)

鳥居龍蔵 (1903)『千島アイヌ』吉川弘文館.

中川裕 (1995)『アイヌ語千歳方言辞典』草風館.

バチェラー、ジョン (1938)『アイヌ・英・和辞典』第4版. 岩波書店.

服部四郎 (編) (1964)『アイヌ語方言辞典』岩波書店.

吉田巖 (1989)『北海道あいぬ方言語彙集成』小学館.

## 資料

上原熊次郎 (1792)『藻汐草』((1972)『成田修一撰 アイヌ語資料叢書 藻汐草』国書刊行会).

加賀伝蔵 (成立年不詳)『蝦夷方言 藻汐草 [写]』加賀家文書館所蔵 (資料番号 49).

(ふかざわ みか・千葉大学大学院人文社会科学研究所)